

宮本(2)遺跡

—県道青森五所川原線道路建設事業に伴う埋蔵文化財調査報告—

2001年2月

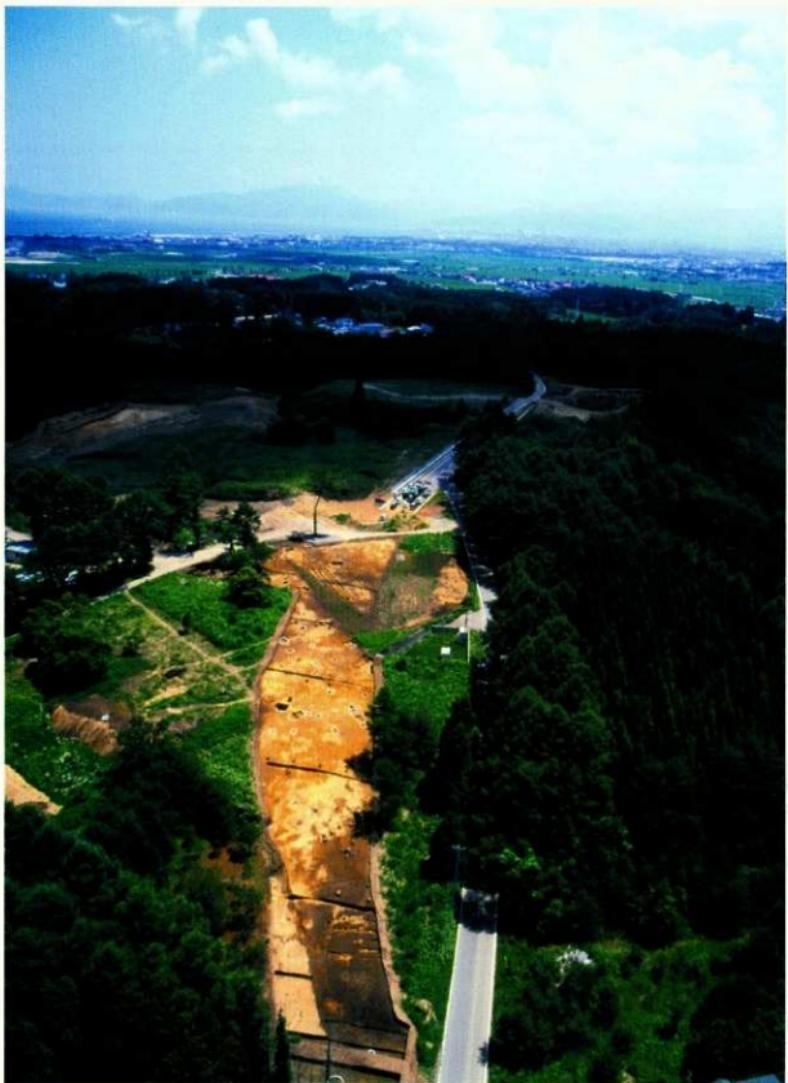
青森県教育委員会

宮本(2)遺跡

—県道青森五所川原線道路建設事業に伴う埋蔵文化財調査報告—

2001年2月

青森県教育委員会



調査区遠景(西から)

序

津軽半島の背骨をなして南北に連なる津軽山地は、青森市の北西部において、陸奥湾沿いに分布する青森平野と接している。この丘陵の先端部には、縄文時代から中世までの多数の遺跡が確認されており、これまでに四戸橋（1）遺跡、内真部（4）遺跡、野木和（1）遺跡、岡町（2）遺跡等の発掘調査が行われました。

これらに加えて、平成11年度に県道青森五所川原線道路建設事業の実施に伴い、当センターが宮本（2）遺跡の発掘調査を実施しました。

この調査によって、今回の調査区からは多数の土坑が検出されました。形態や台付土器、小型土器を伴うものもあることから、その多くは土坑墓として使用されたものと推定されます。時期は、出土した土器片から後期前半期と思われます。また、出土遺物の中に、漁労に使用されたと思われる石製の錘や軽石が含まれており、比較的海岸に近いという立地条件からも、当時の人々の生活を推定するうえで、貴重な資料であると考えられます。

今後、近隣の遺跡との関連の研究を含め、この地域の歴史を明らかにすることに、いささかでも役立つことができれば幸いと存じます。

結びに、この調査の実施及び報告書の作成にあたり、関係機関並びに各位から賜った御指導、御協力に対しまして厚くお礼を申し上げます。

平成13年2月

青森県埋蔵文化財調査センター

所長 中島邦夫

例 言

- 1 本報告書は、青森県埋蔵文化財調査センターが平成11年度に発掘調査した県道青森五所川原線道路建設事業に伴う宮本（2）遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 本報告書は、青森県埋蔵文化財調査センターが編集作成した。なお、執筆者名は依頼原稿については文頭に、その他は文末に付した。
- 3 掘図の縮尺は、各図ごとにスケールを付してある。なお、遺物写真的縮尺は統一していない。
- 4 土層等の色調観察には1996版農林水産省農林水産技術会議事務局監修の「新版標準土色帖（小山正忠・竹原秀雄1996）」を使用した。
- 5 資料の鑑定及び同定、分析については、次の方々に依頼した（順不同・敬称略）
石質の鑑定 松山 力（八戸市文化財審議委員）
放射性炭素年代測定 （株）地球科学研究所
- 6 本書に掲載した地図は、国土地理院発行の2万5千分の1の地形図を複製したものである。
- 7 引用・参考文献については巻末に収めた。文中に引用した文献名については著者名と西暦年で示した。
- 8 調査における出土遺物・実測図・写真等は現在青森県埋蔵文化財調査センターで保管している。
- 9 発掘調査及び本報告書作成にあたり、次の機関並びに諸氏から御教示、御指導を受けた。
(アイウエオ順、敬称略)
青森県立郷土館、青森市教育委員会
遠藤正夫、奥山一恵、小野貴之、小山彦逸、葛西勲、北林八洲晴、木村淳一、工藤 大、児玉大成、佐々木一人、設楽政健、高橋潤、田澤淳逸、長尾正義、沼宮内陽一郎

スクリーントーン凡例



目 次

序

例言

目次

第1章 調査の概要	1
第1節 調査に至る経過	1
第2節 調査の要項	1
第3節 調査の方法	2
第4節 調査の経過	2
調査区域図・グリッド配置図	3
第2章 遺跡の環境	4
第1節 遺跡の位置	4
第2節 遺跡の地形と地質について	5
遺構配置図	8
第3章 繩文時代の遺構と出土遺物	9
第1節 検出遺構	9
1 土坑	9
2 据立柱建物跡	23
第2節 出土遺物	24
1 土器	24
2 石器	24
3 土製品・石製品	25
第4章 古代以降の遺構	39
第1節 検出遺構	39
1 墓穴遺構	39
2 土坑（繞成遺構）	39
第5章 自然科学的分析	41
第1節 放射性炭素年代測定	41
第6章 まとめ	43
引用参考文献	43
報告書抄録	44
写真図版	45

第1章 調査の概要

第1節 調査に至る経過

平成10年度に県土木部道路建設課から県道青森五所川原道路建設予定地にかかる遺跡について照会があった。現地を踏査したところ予定路線内には宮本（2）遺跡、岡町（6）遺跡、岡町（8）遺跡、岡町（9）遺跡、野木和（3）遺跡がかかり、さらに野木和（2）遺跡にも隣接することが分かった。

この道路の建設計画では、宮本（2）遺跡の周辺で曲線になっている現道を直線道路に造り替え、他の部分は現道を拡幅するものである。

宮本（2）遺跡は、現状が畠地と草地で踏査した結果蔬菜畠から縄文時代後期の土器破片が表面採集された。他の遺跡は、現状が宅地あるいは畠地ないしは雜木林で、盛り土等がなされているためか踏査時には遺物を採集できなかった。遺跡カードでは、いずれも縄文時代と平安時代の複合遺跡とされている。このような状況から平成11年度は、宮本（2）遺跡を発掘調査し、他の遺跡については、遺物・遺構の有無を確認する調査を実施することとなった。

(成田 誠治)

第2節 調査要項

1 調査目的

県道青森五所川原線道路建設事業の実施に先立ち、当該地区に所在する青森市宮本（2）遺跡の発掘調査を行い、その記録保存を図り、地域社会の文化財の活用に資する。

2 発掘調査期間

平成11年4月21日から同年7月30日まで

3 遺跡名及び所在地

宮本（2）遺跡（青森市遺跡番号01185）

青森市大字岡町字宮本75-124 外

4 調査面積

約2,700平方メートル

5 調査委託者

青森県土木部道路建設課

6 調査受託者

青森県教育委員会

7 調査担当機関

青森県埋蔵文化財調査センター

8 調査協力機関

青森市教育委員会

9 調査参加者

調査指導員 市川 金丸 青森県考古学会会長（考古学）
 調査協力員 池田 敬 青森市教育委員会教育長
 調査員 藤沼 邦彦 弘前大学人文学部教授（考古学）
 ノ 烏口 天 青森県立郷土館研究員（地質学）
 調査担当者 青森県埋蔵文化財調査センター
 所長 中島 邦夫
 次長・調査第一課長 成田 誠治
 総務課長 成田 孝夫
 文化財保護総括主査 中嶋 友文
 文化財保護主事 竹内 誠司
 調査補助員 今 直子、斎藤奈穂子、松原 朋子、木立 未来

第3節 調査の方法

調査の方法は、道路のセンター杭、No.80とNo.81の基準線として、4×4mのグリッドを設定して用いた。グリッドはNo.80をQ-15として、東西方向に算用数字、南北方向にアルファベットを付し、その呼称は南東隅の杭番号を使用し、例えばO-15と呼称した。磁北は南北の基準線から10°西に傾いている。

標準原点は、近辺に設置された工事用原点からレベル移動を行い、調査区内に数カ所設置した。

遺構の精査は、原則として住居跡は四分法で、その他は二分法で行うこととしたが、遺構によっては、必要に応じて適宜セクションベルトを設けた。精査の結果、遺構と判断できない風倒木跡、抜根跡などの落ち込みは、精査から除外した。（欠番となる。）

実測は、簡易造り方測量を用い、縮尺は20分の1を原則としたが、必要に応じて10分の1を採用した。土層の注記には、「標準七色帖」を採用した。

写真的撮影にあたっては、35mmのモノクローム・カラーネガフィルムの各フィルムを併用して必要に応じて行った。

第4節 調査の経過

平成11年4月20日、発掘調査に備えてグリッドの設定を行った。

4月21日、発掘調査機材を運搬し周辺の整備を行い、午後から調査区の草刈を開始した。また、ベンチ・マークの移動も並行して行った。

4月22日から、発掘調査の粗掘りおよび精査を開始した。

5月18日、重機による仮設道路の敷設及び現道部分の表土処理を行った。

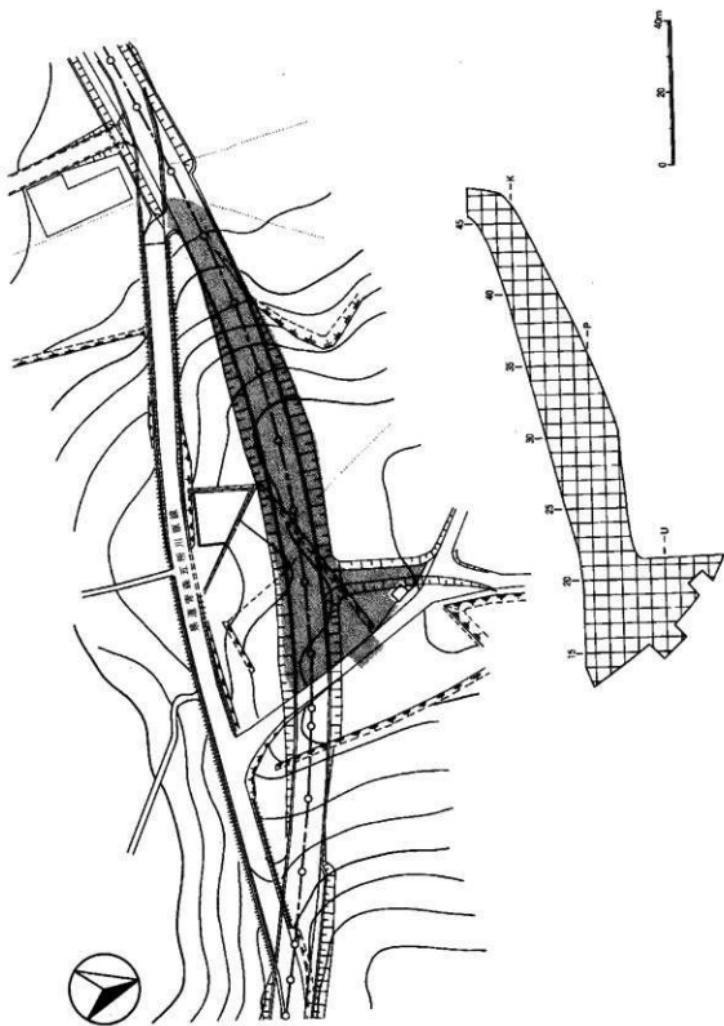
5月17日、青森市アラスカ会館にて合同の調査打ち合せ会議を行った。

6月1日、未調査（未買収）部分の調査を開始する。

6月14日から7月23日まで野木和(3)、岡町(8)・(9)遺跡の確認調査を行った。

7月30日、調査機材を搬出し、宮本(2)遺跡の発掘調査を終了した。

図1 調査対象区域図・グリッド配置図



第2章 遺跡の環境

第1節 遺跡の位置

青森市の地形は、陸奥湾に面した北側の平野部と、それを囲むように位置する東・西・南側の山岳丘陵地帯からなっている。

宮本(2)遺跡は、市街地から西方およそ10km離れた野木和湖のすぐ南の低丘陵地上に位置している。遺跡周辺の地形は、なだらかな斜面で、遺跡が所在する丘陵は畑地や山林が広がっている。標高は、およそ40mである。



図2 遺跡位置図

第2節 遺跡の地形と地質について

青森県立郷土館 島口 天

1. 地形

宮本（2）遺跡のある青森市北西地域は、津軽半島の南東部に位置し、東側を青森湾に面している。津軽半島の主体をなす山地は、北北西—南南東方向に走る津軽山地であり、主な山頂は、北から増川岳（714m）、大倉岳（677m）、馬ノ神山（549m）で、南に向かって低くなる傾向がある。また、半島北東部にも丸屋形岳（718m）を中心とする山地がある。本地域がある山地の南東側には、範囲は狭いが丘陵地が分布し、丘陵地周辺の低地に面した地域には、台地が分布する。低地の大部分は、陸奥湾岸に沿って南北に細長く分布する青森平野で、その幅は内真部・六枚橋付近で約5kmと広いが、瀬戸子以南および阿弥陀川以北では台地によって狭められている。本遺跡は、この地域の主要地方道（青森一五所川原線）沿いにあり、南北を青森平野に向かう小谷に挟まれた起伏の小さな地形面上に位置し、標高は約40mである。

本地域に発達する段丘地形について、吾妻（1995）は次のように述べている。山地と平野の境界は扇状地や崖錐に覆われ、ここには5段（I～V）に区分される海成段丘が分布する。しかし、蓬田から野木和の間では、段丘面は次第に高度を下げ、沖積面下に埋没する。そして、野木和付近には最終間水期最盛期に形成された海成段丘（IIIm面）の分布が認められ、その高度は約15mである。

また中川（1972）は、青森平野周辺部には小規模かつ局所的に段丘が分布し、高位段丘の豆ノ坂段丘、中位段丘の浪館段丘（段丘面は標高20m以下）、諸河川流域にわずかに見られる低位段丘の3段が認められ、浪館段丘は野木和にも分布するとしている。中川（1972）の中位段丘とは、三八・上北地方に広く分布する高館段丘などを代表としており、この段丘面は、中川（1961）や宮内（1985）が最終間水期最盛期に形成されたと考えていることから、吾妻（1995）のIIIm面に対比される。

水野・堀田（1984）は、その地形分類図の中で本遺跡周辺を野木和台地とし、台地を標高・傾斜・開析状態・構成物から4つの地形面に区分して、野木和公園周辺に見られる平坦な地形面をGt II面（中位面：標高10～30m）としている。これは吾妻（1995）のIIIm面や中川（1972）の浪館段丘に相当すると考えられる。そして本遺跡の位置は、それより上位のGt II+面（中位面：標高30～50m）とされている。

2. 地質

津軽半島の山地は、増川岳、大倉岳、馬ノ神山、丸屋形岳を中心に4つの山塊に区分され、構造地質学的には構造ドーム（北から四ツ滝ドーム、袴腰岳ドーム、馬ノ神山ドーム、および北東部の平館ドーム）とされている。各ドームの中心には第三系火山岩や堆積岩が露出し、周囲に新第三系・更新統の堆積岩が分布する。津軽山地のドームの東縁には、津軽断層が三厩から浪岡北方にかけて南北に走る。この断層は70～80°西傾斜した衝上性逆断層で、山地の地質構造を東西に二分する。断層の東側は鮮新統～更新統の堆積岩が厚く堆積するのに対し、西側は中部中新統よりも新しい堆積岩が緩く西へ傾いて分布する（吾妻、1995）。

本遺跡が位置する地域には、更新統の岡町層（加藤ほか、1958）が分布する（箕浦ほか、1998）。

岡町層は、青森市岡町西方を模式地とし、層厚は約100mであるが地域的な変化が著しい。主に級化層理の発達した細円礫や砂あるいは粘土からなり、青灰色のシルト・ラミナの発達した中粒砂・泥炭等を挟む。砂層は礫を含んでクロスラミナが発達する場合がある。大沢迦層（今泉、1949）を不整合に覆い、鶴ヶ坂層（飯塚、1930）には軽微な不整合をもって重なるが、鶴ヶ坂層との構造差はほとんどない（根本・山口、1998）。

次に、本遺跡の基本層序について記述する。

I層 暗褐色土層 (10Y R3/4 厚さ10~20cm)

耕作土。ローム粒（0.5~2cm）が少量含まれ、縮まりがなく脆い。円筒上層式、十腰内I式といった土器のほか、土器が出土。

II層 黒褐~暗褐色土層 (10Y R2/2~3/3 厚さ5~20cm)

耕作土。遺跡のある場所は、畑地として長芋などの栽培が行われていたため、耕作による擾乱が地中深部にまで及んでいる。I層より粘性・湿性があり、縮まっている。混入するローム粒の粒径（0.5~2cm）と色、縮まり具合により、上位から IIa層、IIb層、IIc層、IId層の4層に区分される。IIc層は特に、ブロック状のロームとの混合土となり、縮まりがない。十腰内式土器が出土。

III層 褐色土層 (10Y R4/4 厚さ10~20cm)

下位層への漸移層で、遺物は出土していない。ローム粒（0.5~1cm）や炭化物を少量含み、粘性・湿性があり縮まっている。

IV層 黄褐色軽石質火山灰層 (10Y R5/6 厚さ10~20cm)

固く縮まっているが、粘性がなく崩れやすい。細礫や下部にいくほど小さくなる傾向がある。粒径1cm以下の軽石粒を含む。下位層との境に、レンズ状に固く縮まつた明紫灰色の砂質火山灰が挟まれることがある。弘前大学理工学部において本層に含まれる火山ガラスの化学組成分析を行った結果、十和田一八戸テフラ（To-H:Machida, 1999; 青木・新井, 2000）に同定された。

遺跡地内で確認できた層序は以上であるが、隣接する場所にこの下位の地層を観察できる小露頭があり、以下に示す地層が観察できた。なおVI~IXの4層中には、島口（2000）が2層準に発達する周水河性インポリューションを報告しているが、このインポリューションによる各層の層厚変化が著しいため各々に層厚を明記せず。4層を合計して約3mと記載しておく。

V層 にぶい黄褐色ローム層 (10Y R5/4 厚さ約20cm)

粘性があり、固く縮まる。細礫を微量に含む。下位層のインポリューションによる地形を反映しているのか、IV層との境が波打つように見えるところもある。

VI層 にぶい褐色ローム層 (7.5Y R5/4)

粘性があり、やや砂質で、乾燥してもクラックはあまり発達しない。VII層との境に変形の緩やかなインポリューションが発達する。

VII層 褐色ローム層 (7.5Y R4/4)

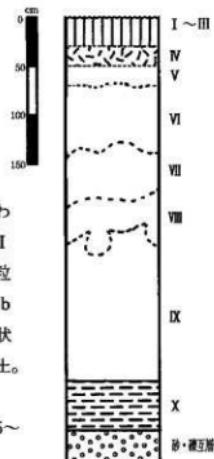


図1 地質柱状図

粘性が高く、乾燥すると細かいクラックが発達する。にぶい黄褐色ローム層（10YR6/4）が挟在する。

VII層 にぶい褐色ローム層（7.5YR5/3）

粘性があり、やや砂質で、乾燥してもクラックはあまり発達しない。IX層との境に変形の著しいインボリューションが発達する。

VI層 褐色ローム層（7.5YR4/6）

粘性が高く、乾燥すると細かいクラックが発達する。

V層 灰白色粘土層（5Y7/1 厚さ約50cm）

粘性が高く、斜長石、石英、粘土鉱物から成り、海綿骨針を化石として含む。上部は暗茶灰色に漸移し、IX層との境は不明瞭である。鉄分が沈積したと思われる茶褐色で垂直方向に伸びる不規則な細い穴が顕著で、断面には茶褐色の同心円状の斑紋が見られる。

これらの下位には、マンガンと考えられる黒色の細かい粒が平行に並ぶ厚さ10cmのシルト層を挟み、粗粒砂と中疊の互層が発達する。中疊は大きいもので長径5cmを越え、並角～亜円形で泥岩や凝灰岩からなる。

地形・地質から、並角～亜円形と粗粒砂の互層とその上位の海綿骨針を含む粘土層（V層）を段丘構成層と考え、本遺跡の位置する場所は岡町層を基盤とする海成段丘面上にあると推定される。そしてこの段丘面は、野木和付近に分布する最終間氷期最盛期に形成された中位段丘面より高位であるため、形成時期はそれより前であると考えられる。また、V層は火山灰起源と推定されるが、粘土化が進み火山灰の特定は難しい。さらに上位の褐色ローム層中の2層準に発達する周氷河性インボリューションのうち、下位のインボリューションの形成時期を島口（2000）がMIS4と推定しており、その層準以下のローム層の堆積時期は、段丘面形成後からMIS4までの間と考えられる。

〈引用文献〉

- 青木かおり・新井房夫（2000）三陸沖海底コア KH94-3, LM-8 の後期更新世テフラ層序. 第四紀研究, 39: 107-120
- 吾妻 崇（1995）変動地形からみた津軽半島の地形発達史. 第四紀研究, 34(2): 75-89
- 飯塚保五郎（1930）青森油田の地質に就いて. 地質学雑誌, 38: 727-732
- 今泉力歲（1949）弘前盆地東縁の地質. 地質学雑誌, 55: 182
- 加藤善雄・田口一雄・齊藤俊明（1958）青森市西部地区的地質. 青森県油田調査報告書, 青森県水産商工部商工課, 6-20
- Machida,H (1999) Quaternary Widespread Tephra Catalog in and around Japan:Recent Progress. *The Quat. Res.*, 38:194-201
- 水野裕・堀田報雄（1984）I地形分類図. 土地分類基本調査「油川」5万分の1国土調査, 青森県, 11-15
- 中川久夫（1972）第二部青森県の第四系. 青森県の地質, 青森県, 71-120
- 根本直樹・山口義伸（1998）II地質各論1津軽地域山第四系. 青森県の地質, 青森県, 44-59
- 箕浦幸治・小管正裕・柴田義伸（1998）青森県地質図. 青森県
- 宮内栄裕（1985）上北平野の段丘と第四紀地盤変動. 地理学評論, 58: 492-515
- 島口 天（2000）青森市野木和における化石周氷河現象. 青森自然誌研究, 5: 65-68

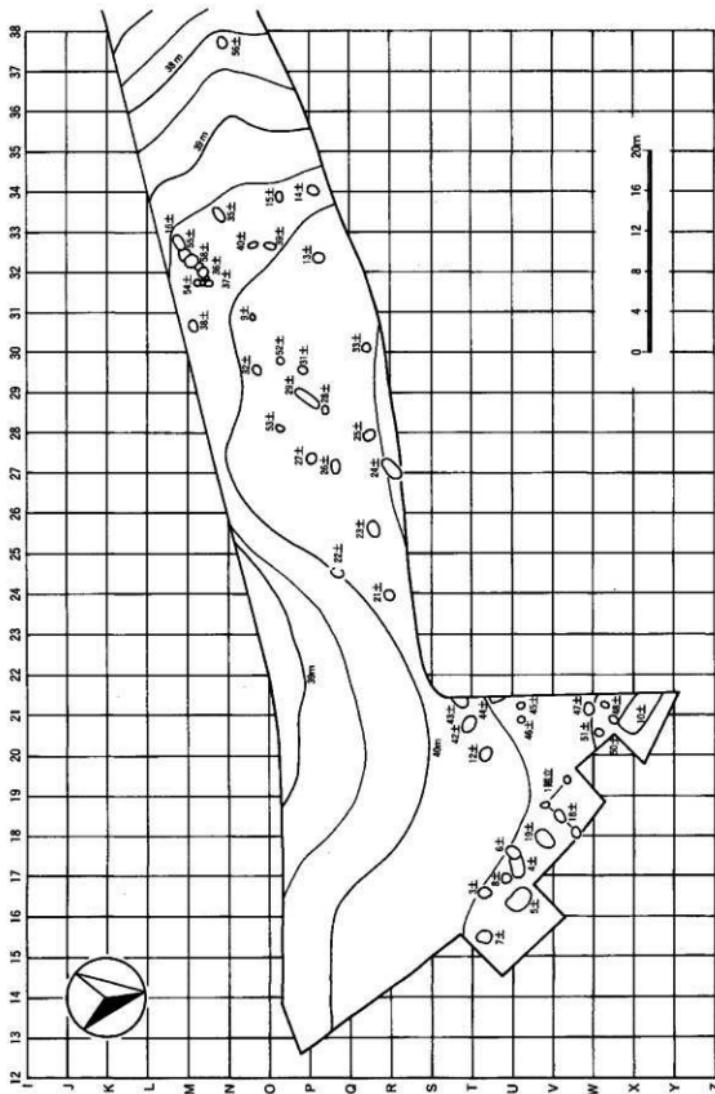


図3 遺構配置図

第3章 縄文時代の遺構と出土遺物

第1節 検出遺構

検出した遺構は、土坑46基、掘立柱建物跡1棟である。

1 土坑（図4・21）

第4号土坑（図4・12）

【位置】 調査区東側のU-17グリッドに位置し、第6号土坑と重複し本土坑が古い。

【平面形・規模】 西側が重複しており長軸は不明、短軸1m29cmの長楕円形で、深さは15cm、底面は平坦である。

【堆積土】 堆積土は黒褐色土が混入する暗褐色土の層のみである。

【出土遺物】 覆土から土器の破片が出土している。

第5号土坑（図4・12）

【位置】 調査区東側のT・U-16グリッドに位置する。

【平面形・規模】 長軸2m83cm、短軸1m5cmの不整楕円形で、深さは95cm、底面はやや起伏があり、ピット（深さ7~16cm）がみられる。

【堆積土】 5層に分層される。

【出土遺物】 覆土から土器の破片と礫が出土している。

第6号土坑（図4・図12）

【位置】 調査区東側のT・U-17グリッドに位置し、第4号土坑と重複し本土坑が新しい。

【平面形・規模】 長軸1m45cm、短軸1m12cmの楕円形で、深さは40cm、底面は平坦である。

【堆積土】 3層に分層される。

【出土遺物】 覆土から土器の破片と礫が出土している。

第8号土坑（図4）

【位置】 調査区東側のT・U-16グリッドに位置する。

【平面形・規模】 長軸1m5cm、短軸93cmの不整形で、深さは15cm、底面に起伏がみられる。

【堆積土】 2層に分層される。

【出土遺物】 遺物は出土しなかった。

第9号土坑（図4）

【位置】 調査区中央部のN-30グリッドに位置する。

【平面形・規模】 断面形がフラスコ状で、開口部直径70cm、坑底部直径95cmのほぼ円形で、深さは36cm、底面にやや起伏がみられる。

【堆積土】 2層に分層される。

【出土遺物】 遺物は出土しなかった。

第12号土坑（図5・12）

【位置】 調査区東側のT-19・20グリッドに位置する。

【平面形・規模】 長軸1m41cm、短軸1m11cmの楕円形で、深さは34cm、底面に起伏がみられる。

〔堆積土〕 2層に分層される。

〔出土遺物〕 覆土から土器の破片が出土している。

第13号土坑（図5・12）

〔位置〕 調査区中央部P-32グリッドに位置する。

〔平面形・規模〕 断面形が二段のフラスコ状で、開口部直径85cm、一段目の坑底部直径1m60cm、二段目の開口部直径55cm、坑底部直径90cmの円形で、深さは1m14cm、底面はほぼ平坦である。

〔堆積土〕 6層に分層される。

〔出土遺物〕 覆土から土器の破片が出土している。

第14号土坑（図5）

〔位置〕 調査区中央部のP-33・34グリッドに位置する。

〔平面形・規模〕 長軸1m、短軸85cmのほぼ方形で、深さは15cm、底面にやや起伏がみられる。

〔堆積土〕 褐色土層のみである。

〔出土遺物〕 覆土から土器の破片が出土している。

第15号土坑（図5）

〔位置〕 調査区中央部のO-33グリッドに位置する。

〔平面形・規模〕 長軸1m17cm、短軸70cmの橢円形で、深さは15cm、底面にやや起伏がみられる。

〔堆積土〕 褐色土層のみである。

〔出土遺物〕 覆土から深鉢と土器の破片が出土している。

第16号土坑（図10・12）

〔位置〕 調査区中央部のJ-32グリッドに位置する。第55号土坑と重複し本土坑が新しい。

〔平面形・規模〕 長軸1m52cm、短軸98cmの橢円形で東側に23cmほどの段をもつ、深さは35cm、底面に起伏がみられる。

〔堆積土〕 褐色土層のみである。

〔出土遺物〕 覆土から土器の破片が出土している。

第17号土坑（図10・12）

〔位置〕 調査区中央部のL・M-32グリッドに位置する。第55号・第58号土坑と重複し本土坑が新しい。

〔平面形・規模〕 長軸1m48cm、短軸1m15cmの橢円形で、深さは48cm、底面に起伏がみられる。

〔堆積土〕 3層に分層される。

〔出土遺物〕 覆土から土器の破片が出土している。

第18号土坑（図5・13）

〔位置〕 調査区東側のV-18グリッドに位置する。

〔平面形・規模〕 長軸1m88cm、短軸85cmの橢円形で、深さは42cm、底面に起伏がみられる。

〔堆積土〕 2層に分層される。

〔出土遺物〕 覆土から土器の破片が出土している。

第19号土坑（図6・13）

〔位置〕 調査区東側のU-17・18グリッドに位置する。

〔平面形・規模〕 長軸2m7cm、短軸1m38cmの橢円形である。深さは45cm、底面はほぼ平坦である。

る。

〔堆積土〕 3層に分層される。

〔出土遺物〕 覆土から土器の破片と剝片・礫が出土している。

第21号土坑（図6・13）

〔位置〕 調査区東側のQ・R-23・24グリッドに位置する。

〔平面形・規模〕 直径約93cmのほぼ円形である。深さは38cm、底面にやや起伏がみられる。

〔堆積土〕 2層に分層される。

〔出土遺物〕 覆土から土器の破片が出土している。

第22号土坑（図6・13）

〔位置〕 調査区中央部のP-24グリッドに位置する。

〔平面形・規模〕 西側はトレンチによって切られているが、残存部分から平面形は橢円形と考えられる。深さは43cm、底面はほぼ平坦である。

〔堆積土〕 2層に分層される。

〔出土遺物〕 覆土から土器の破片と礫が出土している。

第23号土坑（図6・13）

〔位置〕 調査区中央部のQ-25グリッドに位置する。

〔平面形・規模〕 長軸1m55cm、短軸1m22cmの橢円形で、深さは52cm、底面は平坦である。

〔堆積土〕 2層に分層される。

〔出土遺物〕 覆土から土器の破片と礫が出土している。

第24号土坑（図6・13）

〔位置〕 調査区中央部のQ・R-26・27グリッドに位置する。

〔平面形・規模〕 長軸2m45cm、短軸1m38cmの橢円形で、深さは27cm、底面にやや起伏があり、ピット（深さ10cm）がみられる。

〔堆積土〕 2層に分層され、暗褐色土主体の層である。

〔出土遺物〕 覆土から土器の破片と、漆？が内面に付着した土器底部が出土している。

第25号土坑（図6・13）

〔位置〕 調査区中央部のQ-27グリッドに位置する。

〔平面形・規模〕 長軸1m32cm、短軸93cmで南側がやや広がる橢円形で、深さは16cm、底面にやや起伏がみられる。

〔堆積土〕 4層に分層される。

〔出土遺物〕 覆土から土器の破片が出土している。

第26号土坑（図7・13）

〔位置〕 調査区中央部のP-27グリッドに位置する。

〔平面形・規模〕 長軸1m23cm、短軸87cmの橢円形で、深さは21cm、底面にやや起伏がみられる。

〔堆積土〕 2層に分層される。

〔出土遺物〕 覆土から土器の破片と礫が出土している。

第27号土坑（図7・13）

〔位置〕 調査区中央部のO・P-27に位置する。

〔平面形・規模〕 直径85cmのほぼ円形で、深さは10cm、底面にやや起伏がみられる。

〔堆積土〕 黒褐色土層のみである。

〔出土遺物〕 覆土から土器の破片が出土している。

第28号土坑（図7）

〔位置〕 調査区中央部のP-28グリッドに位置する。

〔平面形・規模〕 直径約80cmのほぼ円形で北側に約10cmの段をもつ、深さは39cm、底面は平坦である。

〔堆積土〕 3層に分層される。

〔出土遺物〕 遺物は出土しなかった。

第29号土坑（図7）

〔位置〕 調査区中央部のO・P-28・29グリッドに位置する。南側の一部が搅乱をうけている。

〔平面形・規模〕 長軸2m74cm、短軸82cmの長楕円形で、深さは15cm、底面にやや起伏がみられる。

〔堆積土〕 3層に分層される。

〔出土遺物〕 覆土から土器の破片が出土している。

第31号土坑（図7・13）

〔位置〕 調査区中央部のO-29グリッドに位置する。

〔平面形・規模〕 長軸1m、短軸85cmのはぼ円形で、深さは23cm、底面は平坦である。

〔堆積土〕 黒褐色土層のみである。

〔出土遺物〕 覆土から土器の破片が出土している。

第32号土坑（図7・13）

〔位置〕 調査区中央部のN-29グリッドに位置する。

〔平面形・規模〕 長軸80cm、短軸70cmのはぼ円形で、深さは18cm、底面は平坦である。

〔堆積土〕 2層に分層される。

〔出土遺物〕 覆土から土器の破片が出土している。

第33号土坑（図7）

〔位置〕 調査区中央部のQ-30グリッドに位置する。

〔平面形・規模〕 長軸90cm、短軸70cmのはぼ円形で、深さは8cmで、底面にやや起伏がみられる。

〔堆積土〕 3層に分層され、第3層に炭化物が多く含まれる。

〔出土遺物〕 遺物は出土しなかった。

第35号土坑（図8）

〔位置〕 調査区中央部のM-33グリッドに位置する。

〔平面形・規模〕 長軸1m50cm、短軸82cmの楕円形で東側に30cmほどの段をもつ、深さは45cm、底面にやや起伏がみられる。

〔堆積土〕 黒褐色土層のみである。

〔出土遺物〕 遺物は出土しなかった。

第36号土坑（図10）

〔位置〕 調査区中央部のM-31・32グリッドに位置する。第58号土坑と重複し、本土坑が新しい。

〔平面形・規模〕 長軸1m24cm、短軸90cmの橢円形で、深さは38cm、底面に起伏がみられる。

〔堆積土〕 2層に分層される。

〔出土遺物〕 遺物は出土しなかった。

第37号土坑（図10・13）

〔位置〕 調査区中央部のM-31グリッドに位置する。

〔平面形・規模〕 断面形がフラスコ状で、開口部直径80cm、坑底部直径75cmのほぼ円形で、深さは48cm、底面にやや起伏がみられる。

〔堆積土〕 3層に分層される。

〔出土遺物〕 覆土から土器の底部破片が出土している。

第38号土坑（図8・図13）

〔位置〕 調査区中央部のM-30グリッドに位置する。

〔平面形・規模〕 長軸1m12cm、短軸85cmの橢円形で、深さは30cm、底面はやや起伏がみられる。

〔堆積土〕 3層に分層される。

〔出土遺物〕 覆土から土器の破片が出土している。

第39号土坑（図8）

〔位置〕 調査区中央部のO・N-32グリッドに位置する。

〔平面形・規模〕 長軸1m6cm、短軸74cmの橢円形で、深さは10cm、底面はやや起伏がみられる。

〔堆積土〕 2層に分層される。

〔出土遺物〕 遺物は出土しなかった。

第40号土坑（図8）

〔位置〕 調査区中央部のN-32グリッドに位置する。

〔平面形・規模〕 長軸88cm、短軸58cmの橢円形で、深さは63cm、底面はやや起伏があり、北側に深さ60cmのピットがみられる。

〔堆積土〕 2層に分層される。

〔出土遺物〕 遺物は出土しなかった。

第42号土坑（図8・14）

〔位置〕 調査区東側のS・T-20グリッドに位置する。

〔平面形・規模〕 長軸1m78cm、短軸1m20cmの橢円形で、底面はやや内側に入り込むが平坦で、深さは62cmである。

〔堆積土〕 5層に分層される。

〔出土遺物〕 覆土から土器の破片と剥片、礫が出土している。

第43号土坑（図8・14）

〔位置〕 調査区東側のS-21グリッドに位置する。

〔平面形・規模〕 西側が調査区域外にかかるため調査部分から推定して平面形は橢円形、深さは36cm、底面はやや起伏がみられる。

〔堆積土〕 黒褐色土の層のみである。

〔出土遺物〕 覆土から土器の破片が出土している。

第44号土坑（図8・14）

【位置】 調査区東側のT-21グリッドに位置する。

【平面形・規模】 西側が調査区域外にかかるため平面形は不明である。調査部分の底面は平坦で、深さは58cmである。

【堆積土】 3層に分層される。

【出土遺物】 覆土から土器の破片と礫が出土している。

第45号土坑（図9）

【位置】 調査区東側のU-21グリッドに位置する。

【平面形・規模】 長軸83cm、短軸60cmの橢円形で、深さは10cm、底面はやや起伏がみられる。

【堆積土】 黒褐色土の層のみである。

【出土遺物】 遺物は出土しなかった。

第46号土坑（図9）

【位置】 調査区東側のU-20グリッドに位置する。

【平面形・規模】 長軸80cm、短軸57cmの橢円形で、深さは25cm、底面はやや起伏がみられる。

【堆積土】 2層に分層される。

【出土遺物】 覆土から土器の破片と礫が出土している。

第47号土坑（図9）

【位置】 調査区東側のV・W-21グリッドに位置する。

【平面形・規模】 断面形がフラスコ状で、開口部直径1m18cm、坑底部直径1m28cmのほぼ円形で、深さは28cm、底面はほぼ平坦である。

【堆積土】 2層に分層される。

【出土遺物】 遺物は出土しなかった。

第48号土坑（図9・14）

【位置】 調査区東側のW-21グリッドに位置する。

【平面形・規模】 断面形がフラスコ状で、開口部直径74cm、坑底部直径1m5cmのほぼ円形で、深さは53cm、底面はほぼ平坦である。

【堆積土】 3層に分層される。

【出土遺物】 覆土から土器の破片と礫が出土している。

第50号土坑（図9）

【位置】 調査区東側のW-20グリッドに位置する。

【平面形・規模】 直径約95cmの円形で、深さは32cm、底面はやや起伏があり、北側にピット（深さ5cm）が2基みられる。

【堆積土】 褐色土の層のみである。

【出土遺物】 覆土から土器の破片が出土している。

第51号土坑（図9・14）

【位置】 調査区東側のW-20グリッドに位置する。

【平面形・規模】 直径約80cmのほぼ円形で、深さは30cmで、底面は平坦である。

【堆積土】 暗褐色土の層のみである。

【出土遺物】 覆土から土器の破片が出土している。

第52号土坑（図9）

【位置】 調査区中央部のO-29グリッドに位置する。

【平面形・規模】 西側部分がトレンチによって切られているため平面形は不明である。調査部分の深さは18cm、底面はほぼ平坦である。

【堆積土】 黒褐色土の層のみである。

【出土遺物】 遺物は出土しなかった。

第53号土坑（図9・14）

【位置】 調査区中央部のO-28グリッドに位置する。

【平面形・規模】 長軸96cm、短軸70cmの橢円形で、深さは25cm、底面はほぼ平坦である。

【堆積土】 3層に分層される。

【出土遺物】 覆土から土器の破片が出土している。

第54号土坑（図10）

【位置】 調査区中央部のM-31に位置する。

【平面形・規模】 直径約70cmの円形で、深さは58cm、底面にやや起伏がみられる。

【堆積土】 褐色土の層のみである。

【出土遺物】 遺物は出土しなかった。

第55号土坑（図10・14）

【位置】 調査区中央部L・M-32グリッドに位置する。第16号・第17号土坑と重複し、本土坑がいずれの土坑より古い。

【平面形・規模】 直径約1m30cmの円形で、深さは22cm、底面はやや起伏がみられる。

【堆積土】 2層に分層される。

【出土遺物】 覆土から土器の破片が出土している。

第56号土坑（図10）

【位置】 調査区中央部のM-37グリッドに位置する。

【平面形・規模】 直径約1mのほぼ円形で、深さは16cm、底面はやや起伏がみられる。

【堆積土】 褐色土の層のみである。

【出土遺物】 遺物は出土しなかった。

第58号土坑（図10）

【位置】 調査区中央部のM-32グリッドに位置する。第17号・第36号土坑と重複し、本土坑がいずれの土坑より古い。

【平面形・規模】 重複しているが残存部分から長軸1m10cm、短軸87cmの橢円形で、深さは16cm、底面はやや起伏がみられる。

【堆積土】 暗褐色土の層のみである。

【出土遺物】 遺物は出土しなかった。

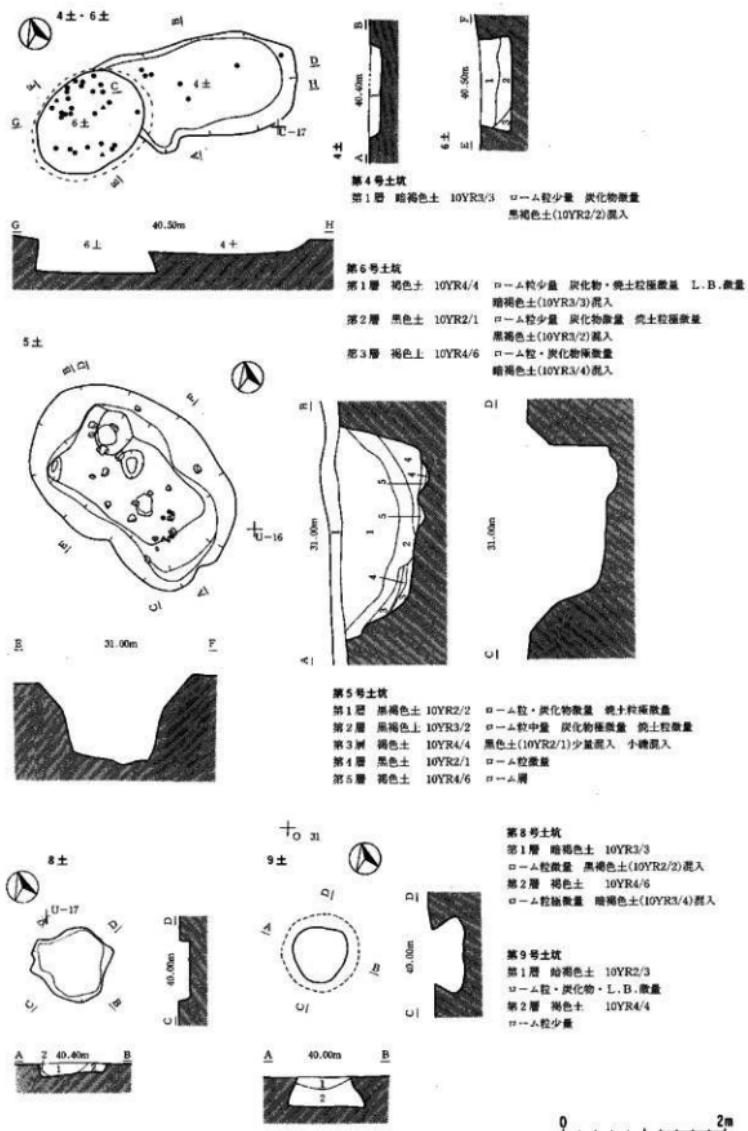


図4 第4号・第5号・第6号・第8号・第9号土坑

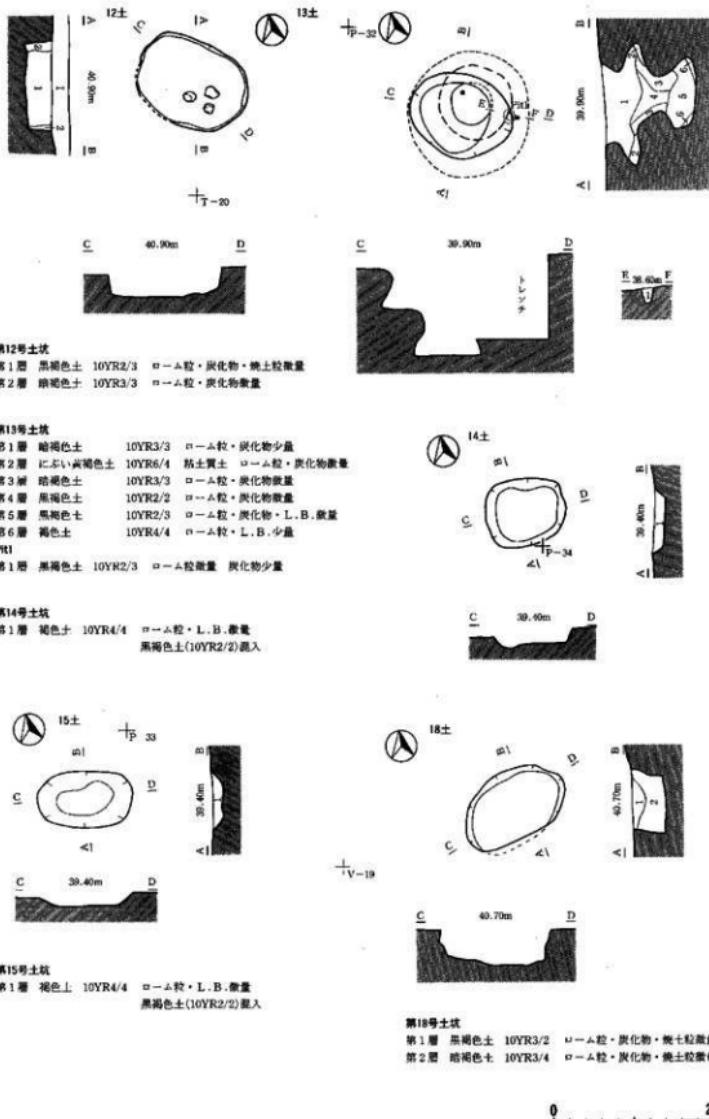
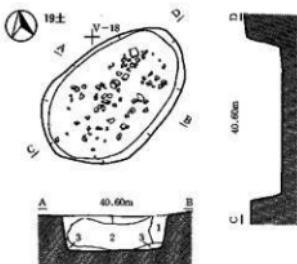
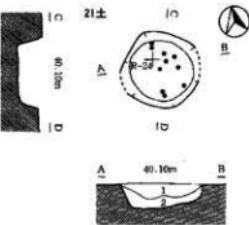


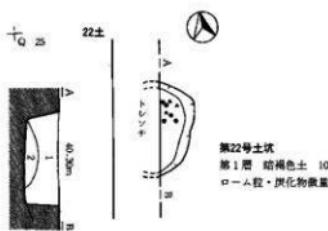
図5 第12号・第13号・第14号・第15号・第18号土坑



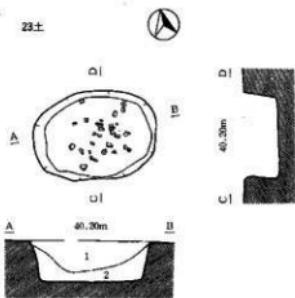
第19号土坑
第1層 黑褐色土 10YR2/3 □—ム粒・炭化物少量 焙土粒微量
第2層 黑褐色土 10YR2/2 □—ム粒・炭化物少量 焙土粒微量
第3層 褐色土 10YR4/6 炭化物少量
黒褐色土(10YR2/3)混入



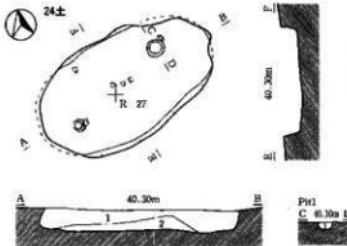
第21号土坑
第1層 黑褐色土 10YR2/2 □—ム粒・炭化物・燒土粒微量
第2層 黑褐色土 10YR2/3 □—△粒・L.B.微量



第22号土坑
第1層 結構色土 10YR3/3
□—ム粒・炭化物微量



第23号土坑
第1層 黑褐色土 10YR2/2 □—ム粒・炭化物少量 烧土粒微量
第2層 黑褐色土 10YR2/3 炭化物・燒土粒微量
結構色土(10YR3/3)混入



第24号土坑
第1層 黑褐色土 10YR3/3 □—ム粒・炭化物少量 烧土粒微量
第2層 黑褐色土 10YR3/4 □—ム粒中量 炭化物少量 烧土粒・L.B.微量

Pit
第1層 黑褐色土 10YR3/3 □—△粒微量

第25号土坑
第1層 黑褐色土 10YR2/1 □—ム粒微量
第2層 黑褐色土 10YR2/2 □—ム粒少量 炭化物微量
第3層 黑褐色土 10YR3/3 □—ム粒少量 L.B.少量
第4層 褐色土 10YR4/4 □—ム粒微量

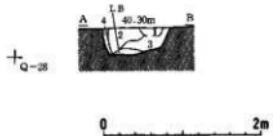
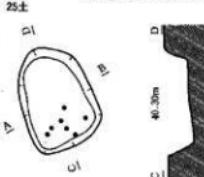
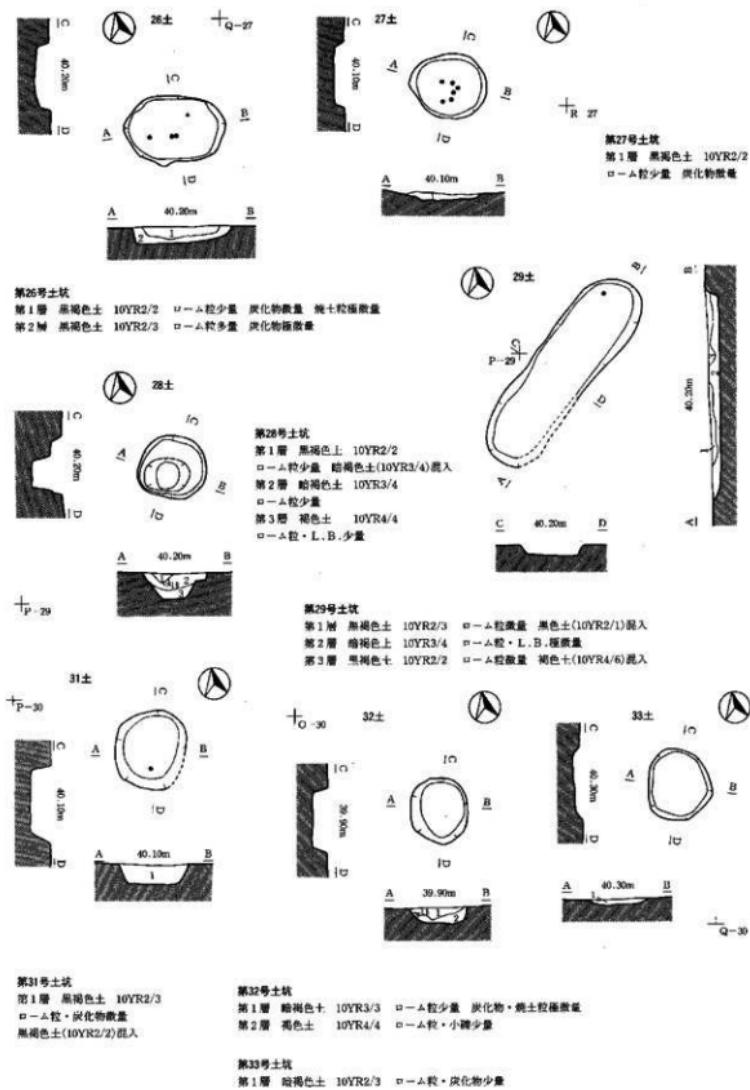


図6 第19号・第21号・第22号・第23号・第24号・第25号土坑



0 2m

図7 第26号・第27号・第28号・第29号・第31号・第33号土坑

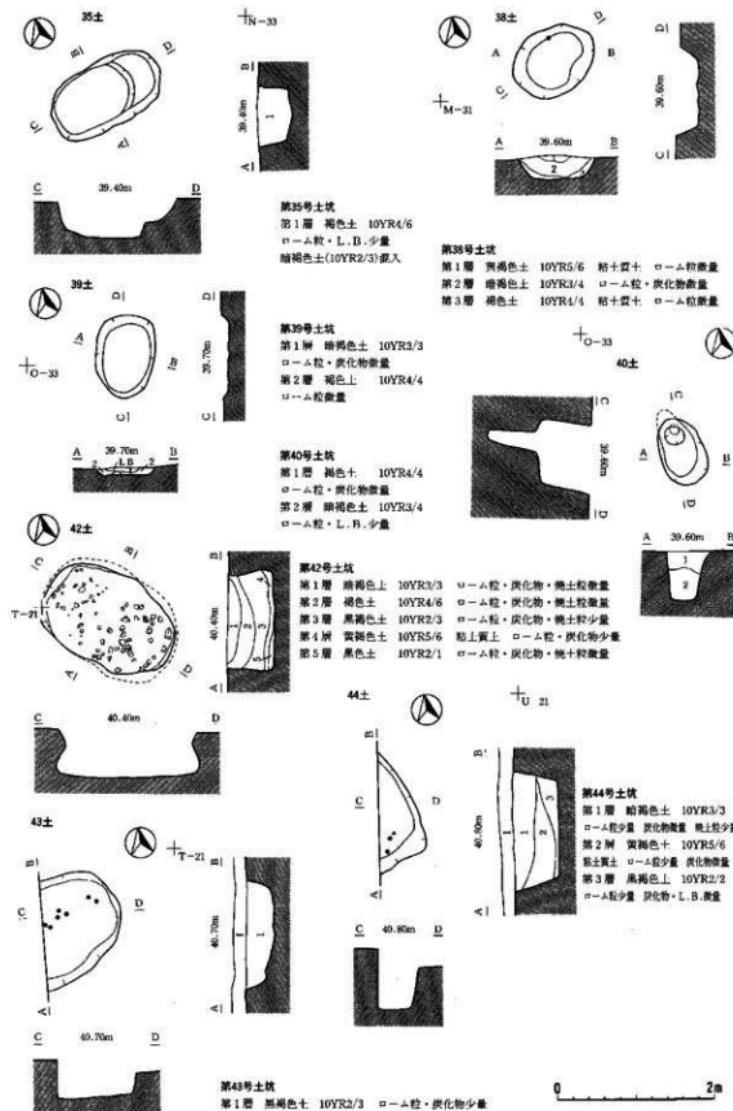
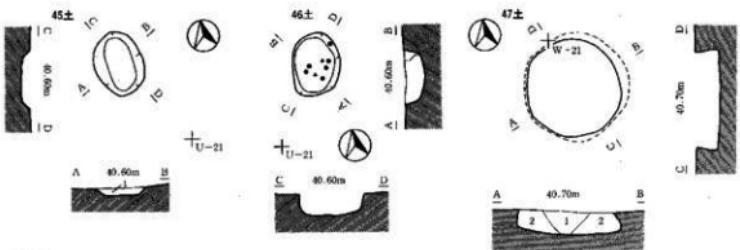


図8 第35号・第38号・第39号・第40号・第42号・第43号・第44号土坑



第45号土坑

第1層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒・炭化物微量 暗褐色土(10YR3/4)混入

第46号土坑

第1層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒少量 炭化物・L.B.粘土
褐色土(10YR4/4)混入
第2層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒少量

第47号土坑

第1層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒少量 炭化物・地土粒微量
第2層 黒褐色土 10YR3/4 ローム粒少量 炭化物・地土粒微量

第48号土坑

第49号土坑

第1層 褐色土 10YR4/4
粘土質土 ローム粒・炭化物少量
黒褐色土(10YR3/3)混入

第50号土坑

第1層 褐色土 10YR4/4
ローム粒・炭化物微量

第51号土坑

第1層 黒褐色土 10YR3/4 ローム粒・炭化物・焼土粒微量

第52号土坑

第1層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒微量 炭化物微量

第53号土坑

第1層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒微量
暗褐色土(10YR3/3)混入
第2層 黑褐色土 10YR2/3 ローム粒微量 L.B.少量
第3層 黑褐色土 10YR3/3 ローム粒微量

0 2m

図9 第45号・第46号・第47号・第48号・第50号・第51号・第52号・第53号土坑

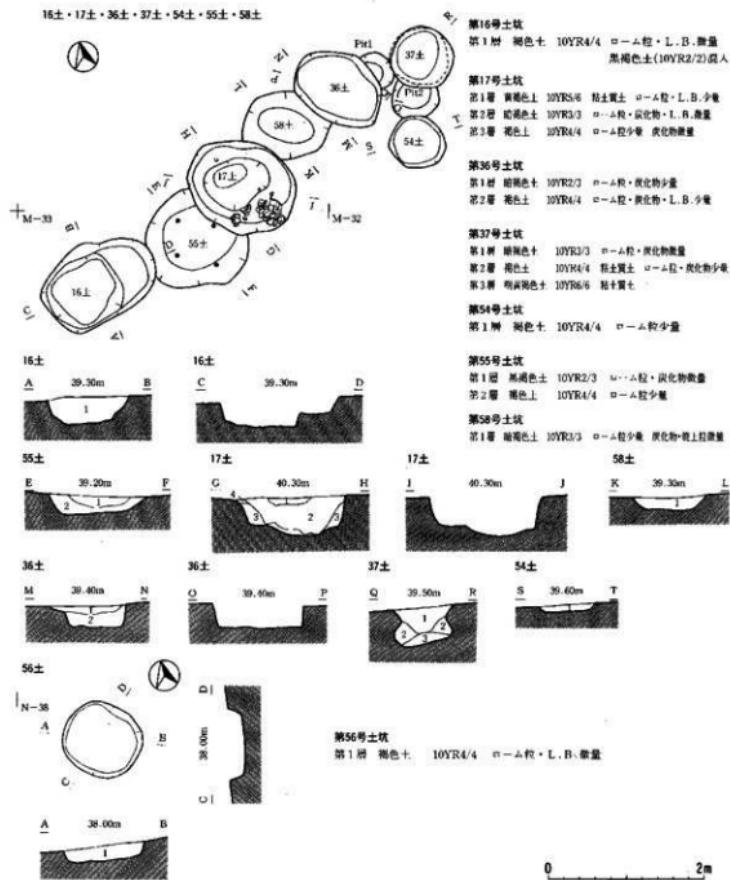


図10 第16号・第17号・第36号・第37号・第54号・第55号・第56号・第58号土坑

2 堀立柱建物跡

第1号堀立柱建物跡（図11・14・15）（旧第20号土坑・第57号土坑・第60号土坑）

【位置】 調査区東側U-18, V-17~19グリッドに位置する。

【平面形・規模】 北側の柱跡は調査区域外のため確認できなかつたが、調査した3基の柱跡から1間×1間の建物跡である。柱間はピット1（第57号土坑）とピット2（第20号土坑）が3m48cm、ピット2とピット3（第60号土坑）が4m6cmで、平面形は長方形である。検出されたピットの平面形は、やや楕円形で、それぞれの柱穴の規模と深さは、ピット1が長軸95cm・短軸83cm・深さ1m10cm、ピット2が長軸85cm・短軸75cm・深さ1m10cm、ピット3が長軸1m5cm・短軸83cm・深さ1mである。

【堆積土】 いずれのピットも炭化物が含まれている。

【出土遺物】 それぞれのピットから土器が出土している。

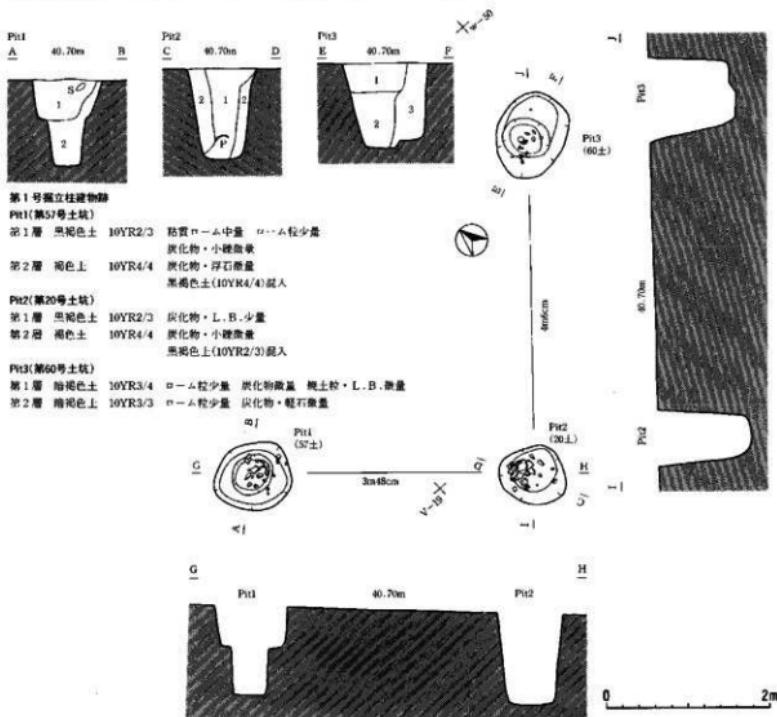


図11 第1号堀立柱建物跡

第2節 出土遺物

出土した遺物は、平成11年度の調査で、段ボール箱に63箱分出土した。

そのうち大部分が縄文時代後期と考えられる遺物である。

1 土器 (図12~17)

土器の分類にあたっては、次の通り第I~VII群に分類した。

第I群土器 縄文時代早期に属する土器

第II群土器 縄文時代前期に属する土器

第III群土器 縄文時代中期に属する土器

第IV群土器 縄文時代後期に属する土器

1類 摺糸圧痕・粘土帯を用いるもの、粘土帯の上面の圧痕をもつもの

2類 消磨文を用いるもの、方形区画文をもつもの

3類 地縄文に渦巻文等を施文するもの

4類 縦位・横位方向に展開する文様をもつもの

5類 入組文などを多用するもの

第V群土器 縄文時代晩期に属する土器

第VI群土器 弥生時代・続縄文時代に属する土器

第VII群土器 平安時代に属する土器

2 石器 (図18~20図)

石器の分類にあたっては剥片石器と礫石器に分類しそれぞれ細分した。

1 石鎌 I群 無形石鎌 a類 凹基 (基部に抉りの部分が認められるもの)

b類 円基 (基部の両端が膨らむもの)

c類 平基 (基部が直線的なもの)

II群 有茎石鎌 a類 凸基 (基部がY字状を呈するもの)

b類 平基 (基部が直線的なもの)

c類 柳葉形 (鎌身が全体的に薄い)

2 石錐 I群 基部が張り出し、錐部とつまみ部の区別が明瞭なもの

II群 側縁が膨らみ棒状のもの

3 石匙 柄の主軸が刃部と平行するもの (縦型石匙)

4 篦状石器 側縁が外湾しつつ開き、全体が橢円形に近い形態をもつ

5 不定形石器 I群 長軸に対し平行な刃部を持ち、削器的な使われ方

II群 側縁に弧状の刃部を持ち、搔器的な使われ方

III群 長軸に対し直行な刃部を持ち、搔器的な使われ方

6 磨製石斧 I群 二次加工痕 (擦り、敲き) がみられない完形品及び欠損品

II群 擦りや敲きによる二次加工痕が認められ、再利用したと考えられるもの

7 石錘 I群 扁平な疎の長軸に対し両端を打ち欠くもの

a類 打欠き痕のみを持つもの

b類 打欠き痕以外に擦りや敲打痕を持ち、敲磨器から転用されたと考えられるもの

II群 扁平な礫の長軸及び短軸の両端、両側を打ち欠くもの

a類 打欠き痕のみを持つもの

b類 打欠き痕以外に擦りや敲打痕を持ち、敲磨器から転用されたと考えられるもの

III群 打ち欠き痕が1ヶ所しか確認できず、全体の形状が不明なもの

8 敲磨器類 I群 主要痕跡が擦痕で平坦面を形成しているもの

II群 主要痕跡が敲打痕のもの及び凹み敲打痕を持つもの

a類 平坦面を機能面としているもの

b類 端部、側縁を機能面としているもの

c類 平坦面及び端部、側縁を機能面としているもの

d類 球状のもの

III群 複合痕を有するもの

9 砥石 I群 柱状で断面が面取りされているもの

II群 U字状の断面を持つもの

10 軽石 I群 調整（擦り）によって面取りされているもの

II群 調整面が認められないもの

3 土製品・石製品（図21）

出土した土製品は、9点で、土偶、舞型土製品、土玉、円盤状土製品などに、また石製品は7点で、硬玉製垂飾品、石剣、円盤状石製品に分けられ、各器種の特徴を記載する。

土偶（図21-222）頭部と脚部が欠損しており、両肩からわき腹にかけて貫通孔がみられる。

舞型土製品（図21-223・224）2点出土した。いずれも欠損品である。

土玉（図21-227）やや丸みをもったものである。

円盤状土製品（図21-228）沈線文の土器片を利用し、周囲を打欠いて円盤状にしている。

不明土製品（図21-225・226・230）225は棒状、230は両面に刺突痕がみられる。

硬玉製垂飾品（図21-231）形態は梢円形で貫通孔を持つ。

石剣（図21-233）石剣の体部と考えられ、頭部及び先端部を欠損している。側縁に溝を持つ。

円盤状石製品（図21-234）周縁を大小の割離によって調整されている。

不明石製品（図21-232・235～237）232は板状の凝灰岩で、両面に深い凹みを持つ。237は側縁部を一周するように溝を持つ。

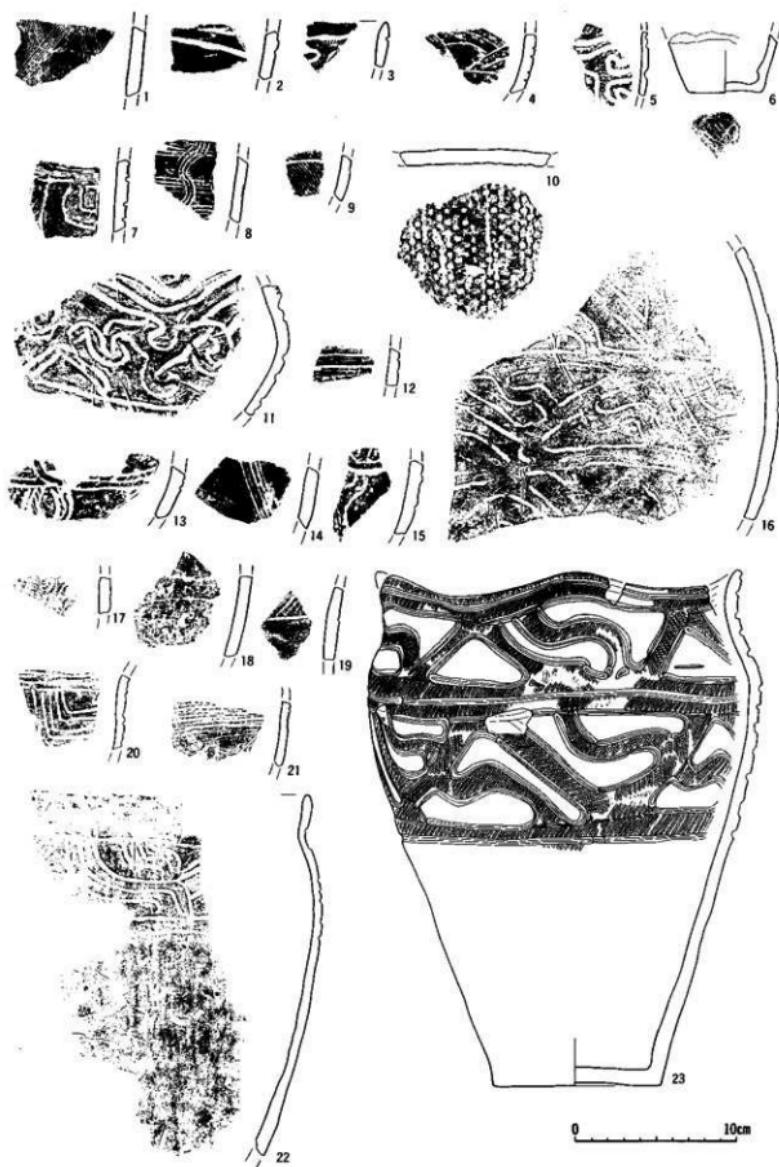


図12 土坑内出土土器(1)

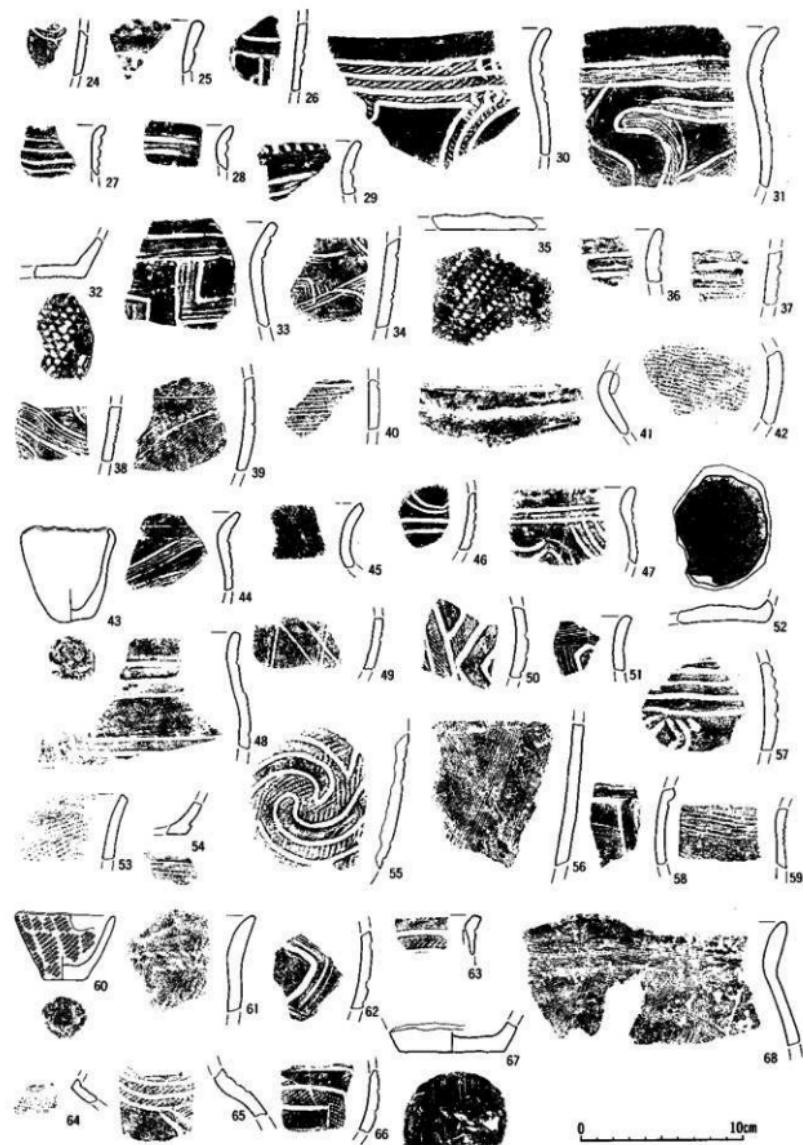


図13 土坑内出土土器(2)

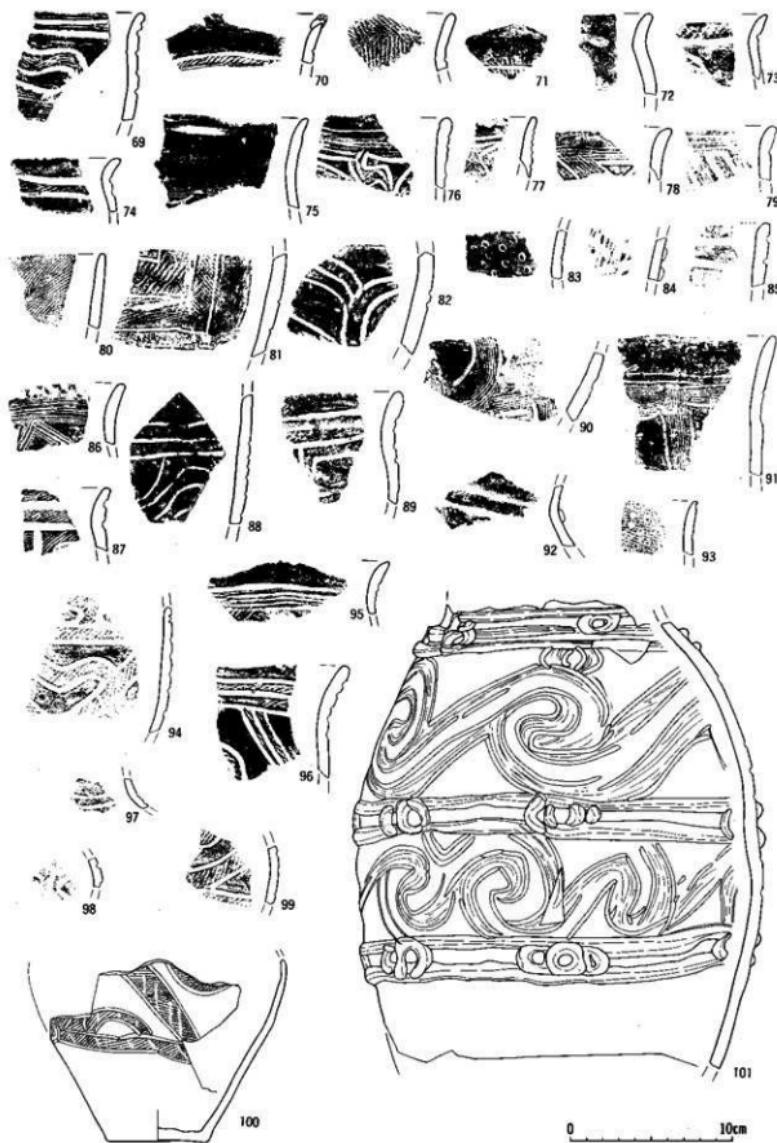


図14 土坑内出土土器(3)

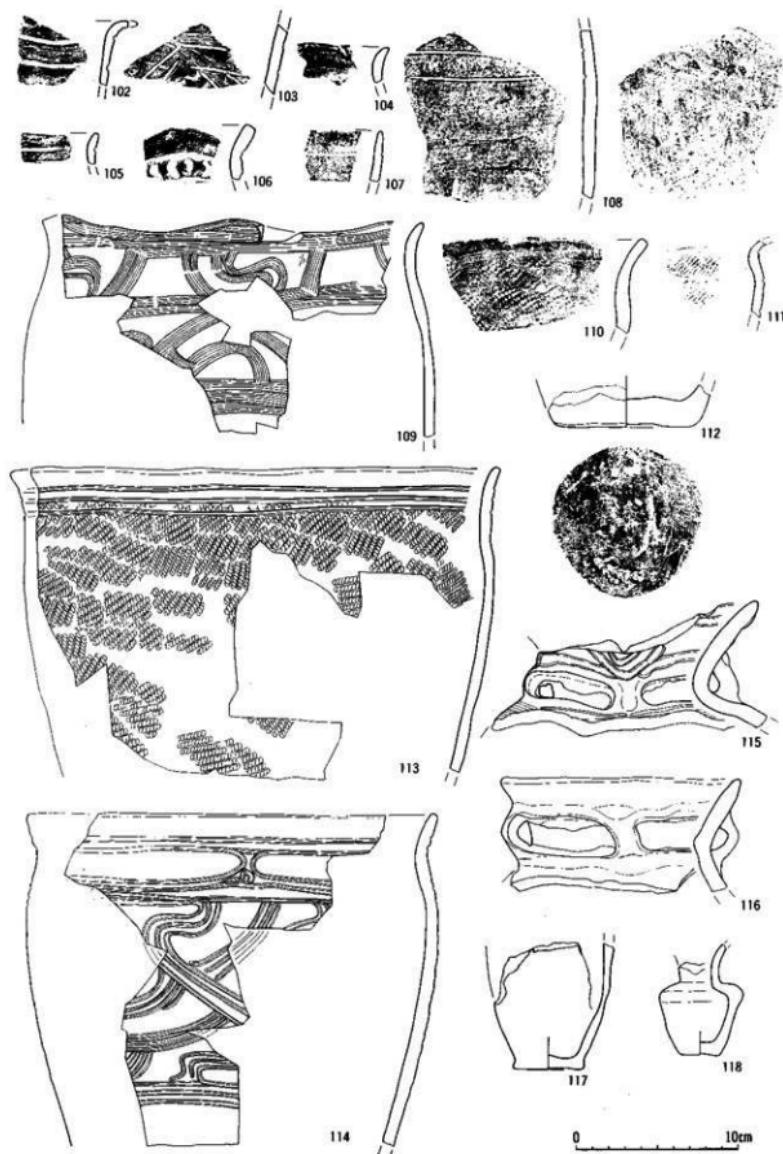


図15 掘立柱・遺構外出土土器(1)

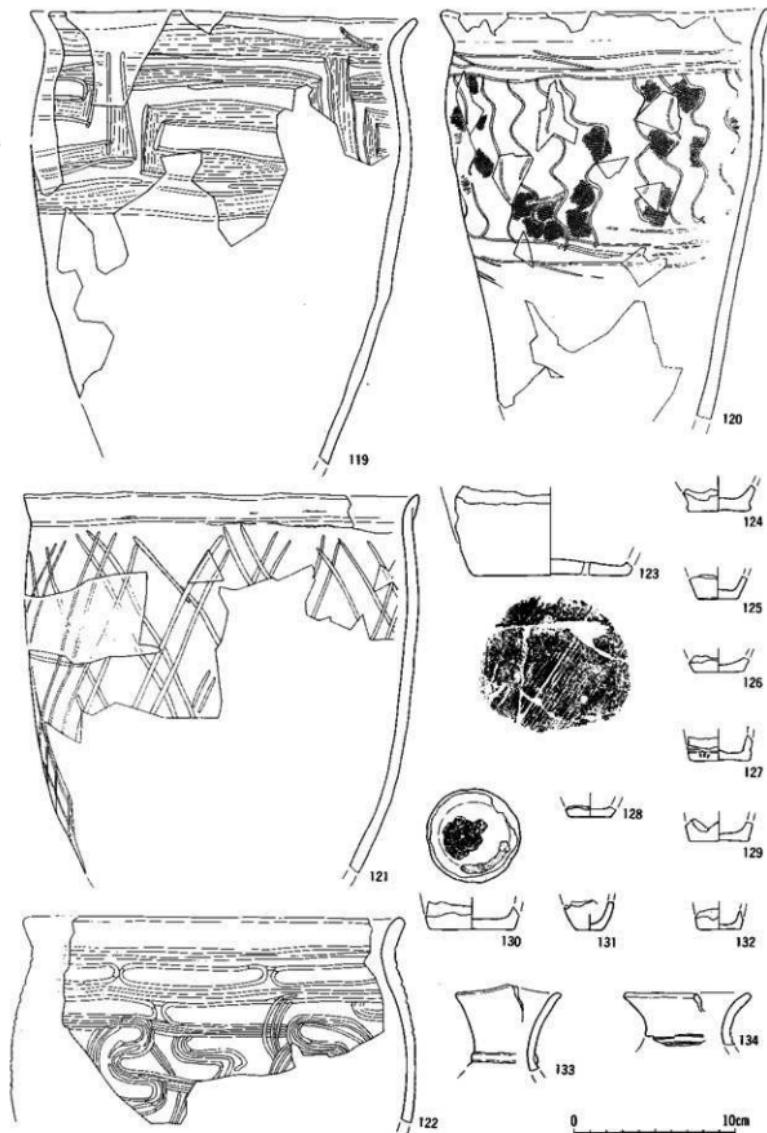


図16 遺構外出土土器(2)

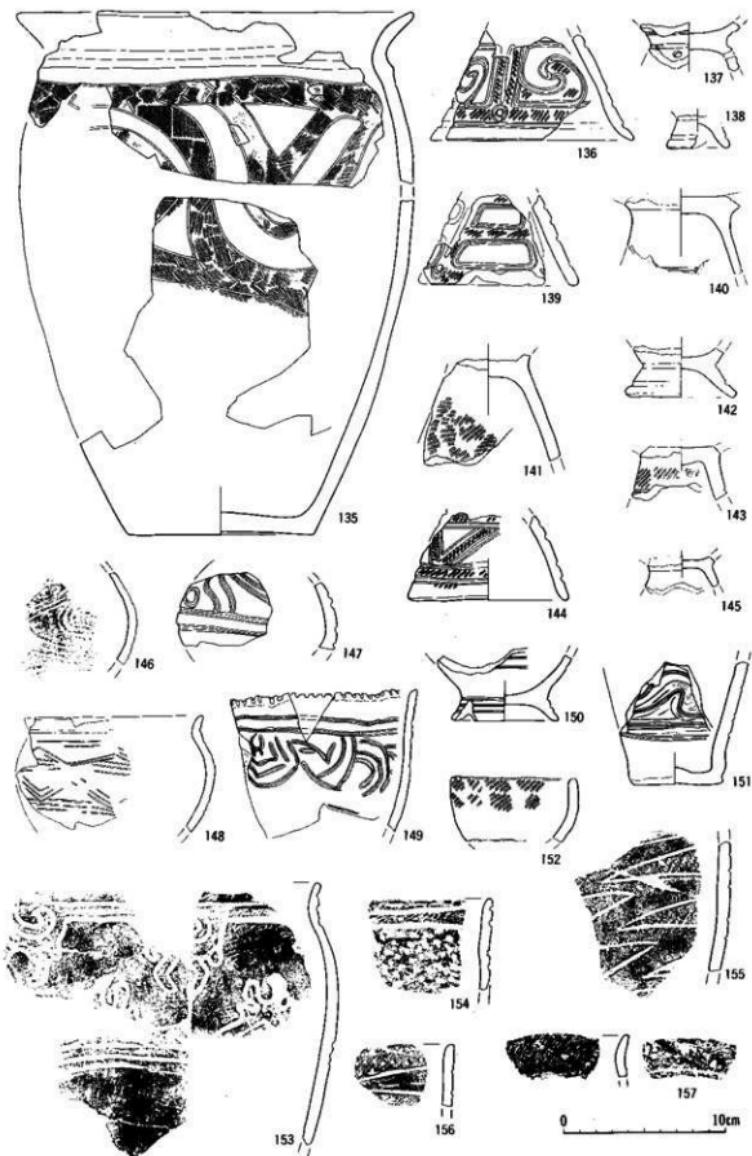


図17 遺構外出土土器(3)

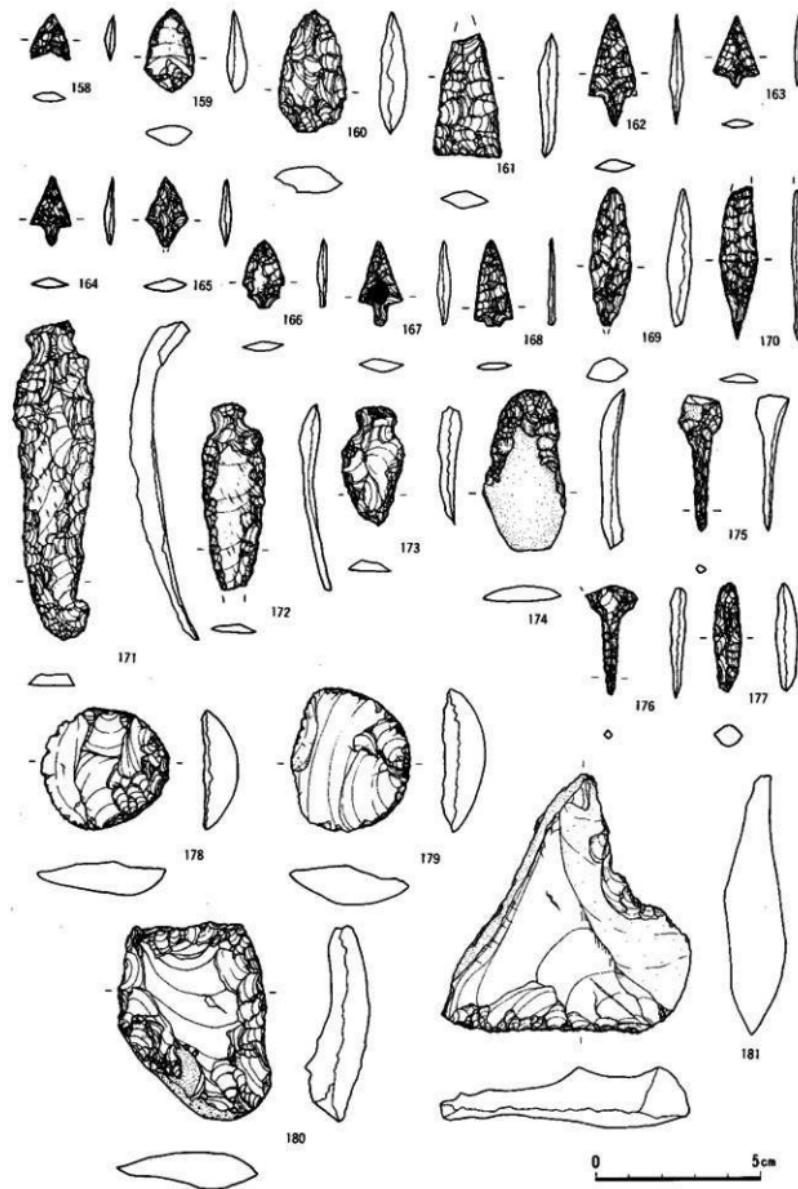


図18 土坑内・遺構外出土石器

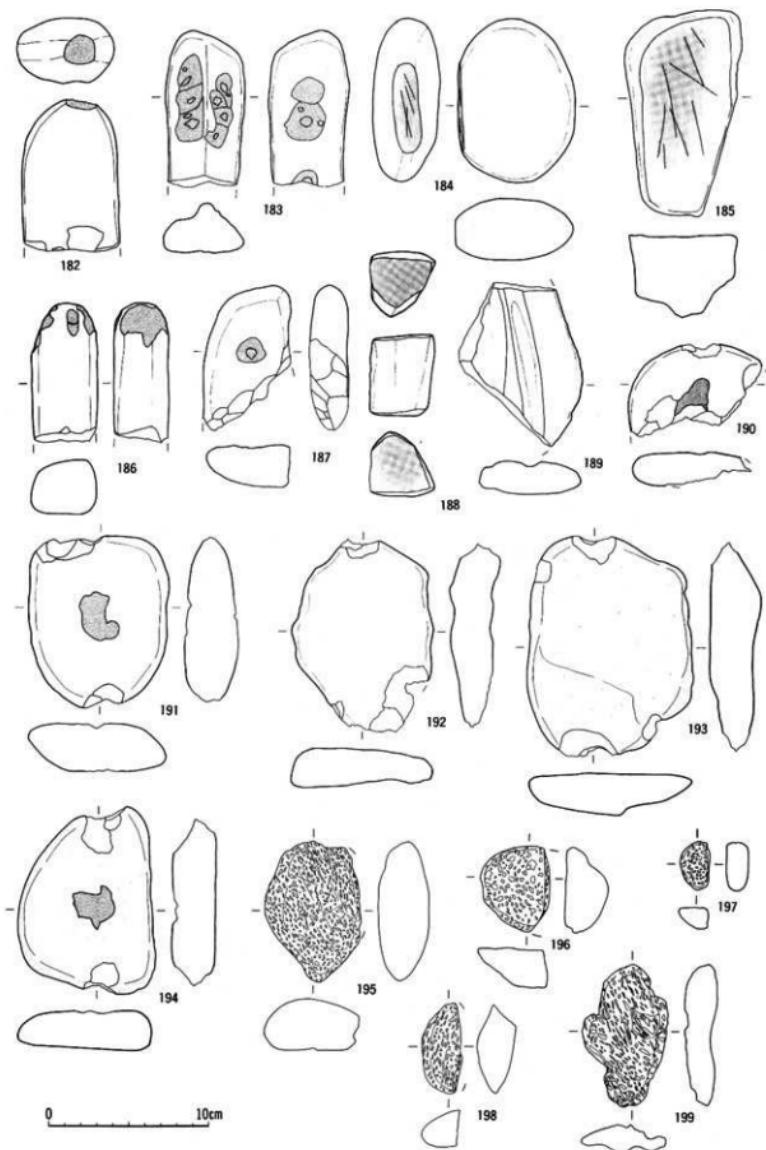


図19 土坑内出土石器

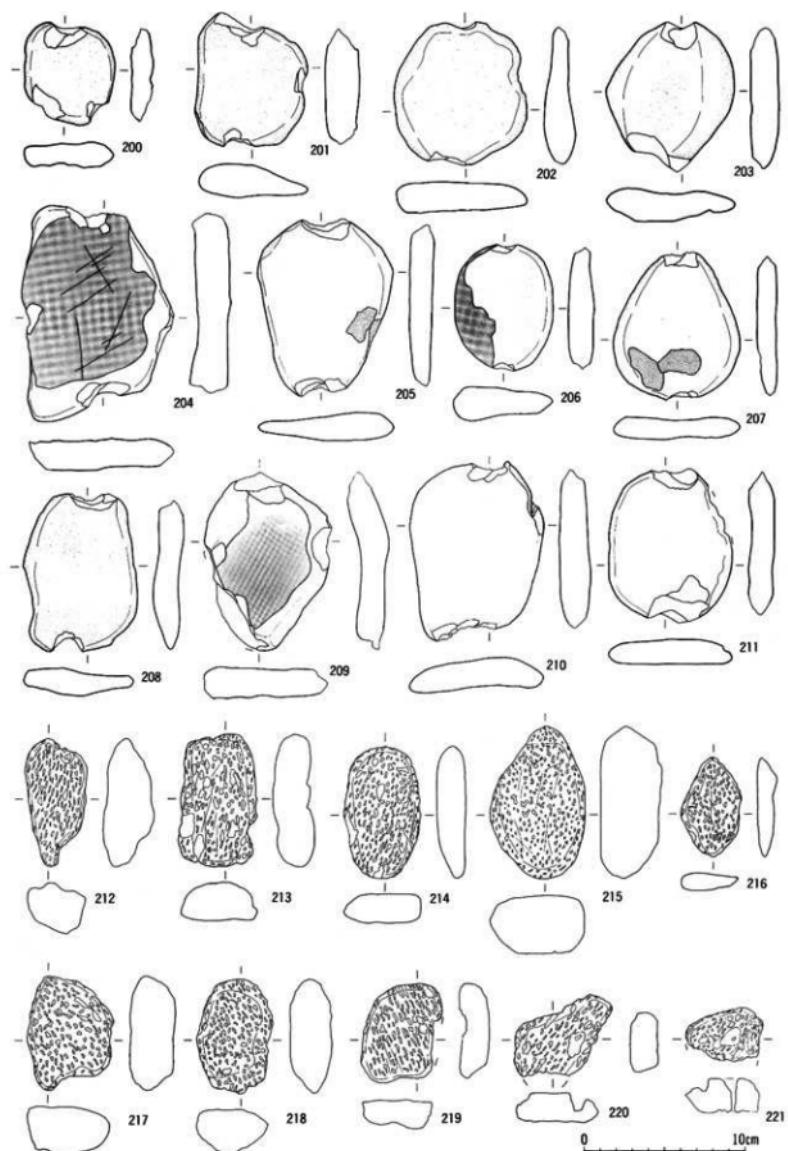


図20 遺構外出土石器

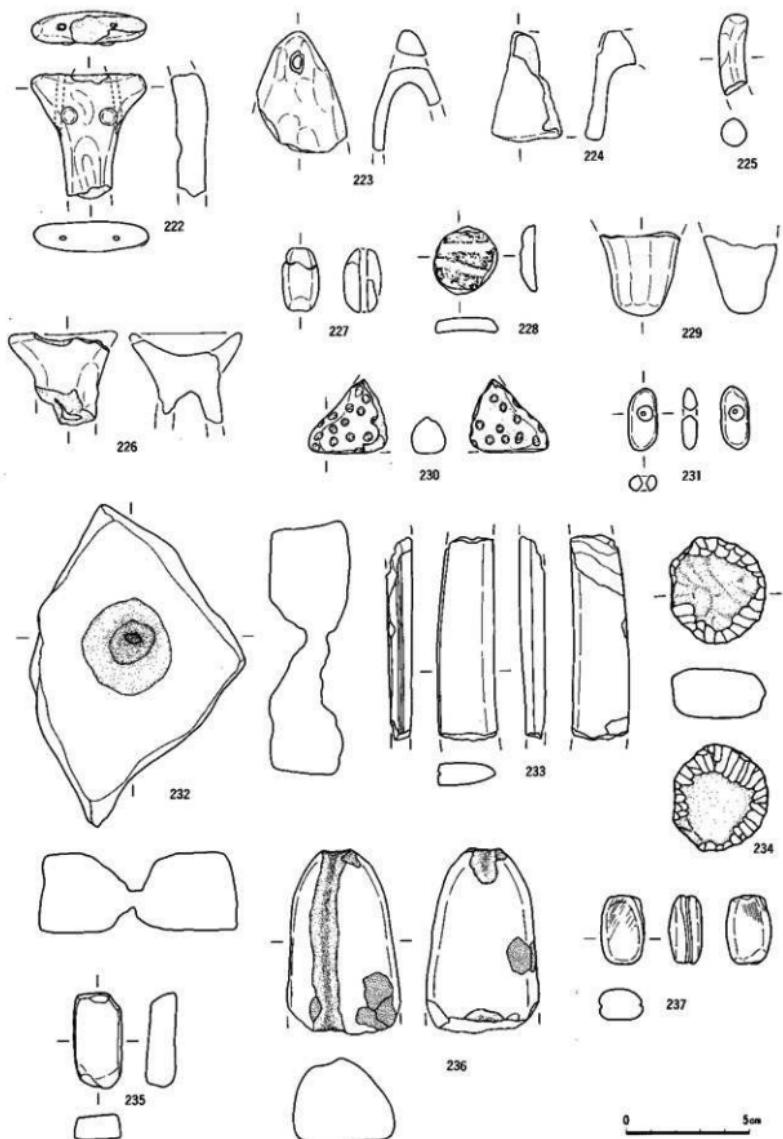


図21 遺構外出土土製品・石製品

縄文土器

団体番号	出土場所	器種	部位	文様	形	分類	備考
国12-1	4±・7クタ 深林	網	腹	織目文(表面)	N 4 N 5	P-5	
2	4±・7クタ 深林	網	腹	直線	N	P-3	
3	4±・7クタ 深林	口縁	口縁	瓦面-1層-1-1-1	N 3	P-4	
4	5±・7クタ 深林	網	腹	直線	N		
5	5±・7クタ 深林	網	腹	直線	N		
6	5±・7クタ 林	網	腹	直線	N		
7	5±・7クタ 深林	網	腹	直線	N		
8	5±・7クタ 深林	網	口縁	直線	N		
9	6±・7クタ 深林	網	腹	直線-伏見文	N	P-6	
10	12±・7クタ 深林	長	腹	直線折衷	N		
11	17±・1層	垂	網	直線	N 4	P-29	
12	13±・7クタ 深林	網	腹	直線	N 3		
13	12±・1層	垂	網	直線	N		
14	13±・7クタ 深林	網	腹	直線	N 4		
15	13±・7クタ 深林	網	口縁	直線	N		
16	17±・1層	垂	網	直線折衷-伏見-垂繩	N 2	P-25	
17	14±・7クタ 深林	網	腹	L.R文	N		
18	15±・7クタ 深林	網	腹	直線	N		
19	16±・7クタ 深林	網	腹	L.R文-1-1-1	N		
20	17±・7クタ 深林	網	腹	直線(万字形)	N 2	P-20	
21	17±・7クタ 深林	網	腹	直線	N		
22	17±・7クタ 深林	網	口縁	直線	N	P-15	
23	17±・7クタ 深林	網	腹	直線-1-1-1-1-1-1	N 4	P-3,5-8,10,16-19	
国13-24	18±・長面	深林	網	直線	N		
25	18±・7クタ 深林	口縁	口縁	瓦面-1層-1-1-1	N 2	P-49	
26	19±・7クタ 深林	網	腹	L.R文-1-1-1-1-1	N		
27	19±・7クタ 深林	網	口縁	L.R文-1-1-1-1-1	N		
28	19±・7クタ 深林	口縁	口縁	直線-1-1-1-1-1-1	N		
29	19±・7クタ 深林	網	腹	直線-1-1-1-1-1-1	N 2	P-74	
30	19±・7クタ 深林	口縁	口縁	瓦面-1層-1-1-1	N 2	P-99	
31	19±・7クタ 深林	口縁	口縁	直線-1-1-1-1-1-1	N	P-13,25	
32	19±・7クタ 深林	網	腹	直線	N	P-33	
33	19±・7クタ 深林	口縁	口縁	直線-1-1-1-1-1-1	N 2	P-92	
34	19±・7クタ 深林	網	腹	直線	N	P-18	
35	21±・7クタ 深林	底	底	直線折衷	N 2	P-9	
36	21±・7クタ 深林	口縁	口縁	直線	N 6	P-25	
37	21±・7クタ 深林	口縁	口縁	直線-1-1-1-1-1-1	N	P-50	
38	22±・7クタ 深林	網	腹	直線-1-1-1-1-1-1	N	P-73	
39	22±・7クタ 深林	網	腹	直線-1-1-1-1-1-1	N	P-6	
40	22±・7クタ 深林	網	腹	直線	N		

編文土器	出土地・層位	器種	形立	文	縁	等	分類	備考	参考文献番号
81	42±・7ク土	深林	網	R露文・芯縫	口縫	N 2	P=6,8,59	Y-22・Ⅲ上 深林 口縫 (株子状)	W 4
82	42±・7ク土	深林	網	芯縫	口縫	N	P=13	Y-22・Ⅲ上 深林 口縫	W 5
83	42±・7ク土	深林	網	円形斜面文	口縫	N		Y-22・Ⅲ上 深林 芯縫	W
84	42±・7ク土	深林	網	斜付+横文透文	口縫	N		Y-22・Ⅲ上 深林 芯縫	W
85	42±・7ク土	深林	口縫	芯縫	口縫	N		Q=20・II 小型土器	W
86	43±・7ク土	深林	口縫	側面斜面文	口縫	N		Q=24・I 小型土器	W
87	43±・7ク土	深林	口縫	長文久・芯縫	口縫	N	P=2	Q=24・II 小型土器	W
88	43±・7ク土	深林	網	芯縫	口縫	N	P=2	Q=24・II 小型土器	W
89	43±・7ク土	深林	口縫	芯縫	口縫	N	P=6	天井模様化け仕上げ	W
90	44±・7ク土	深林	網	側面斜面文→芯縫	口縫	N		Q=22・II 小型土器	W
91	44±・7ク土	深林	口縫	側面斜面文	口縫	N	P=1	O=21・I 小型土器	W
92	45±・7ク土	串付	網	R.L露文+骨突物突起	口縫	N		Q=23・II 小型土器	W
93	48±・7ク土	深林	口縫	R.L露文+骨突物突起	口縫	N		Q=19・I 縁	W
94	51±・7ク土	深林	網	R.L露文+芯縫、管状突起+縫隙	口縫	N	P=2	O=20・I 縁	W
95	51±・7ク土	深林	口縫	側面斜面文→芯縫、管状口縫	口縫	N	P=1	Q=17・III 深林 口縫	W
96	51±・7ク土	深林	口縫	R.L露文+芯縫	口縫	N	P=3	Q=23・II 台付	W
97	53±・7ク土	串	網	芯縫	口縫	N		Q=22・II 台付	W
98	55±・7ク土	串	網	芯縫+R.L露文	口縫	N	P=4	Q=20・I 台付	W
99	53±・7ク土	串	網	R.L露文+芯縫+骨突	口縫	N		Q=22・II 台付	W
100	58±・7ク土	串	網	芯縫	口縫	N	P=55,56	Q=28・II 台付	W
101	58±・7ク土	串	網	側面斜面文	口縫	N	P=6	Q=28・II 台付	W
102	58±・7ク土	深林	口縫	側面斜面文→芯縫	口縫	N	P=6	Q=28・II 台付	W
103	58±・7ク土	深林	網	側面斜面文→芯縫	口縫	N	(P11) P=47	R=22・II 台付	W
104	58±・7ク土	深林	口縫	芯縫	口縫	N	(P11) P=17	O=26・I 台付	W
105	58±・7ク土	深林	口縫	芯縫+芯縫	口縫	N	(P12)	Q=24・I 台付	W
106	58±・7ク土	深林	口縫	底状口縫、芯縫	口縫	N	(P11)	O=28・II 台付	W
107	58±・7ク土	深林	口縫	芯縫+芯縫	口縫	N	(P11) P=6	Q=25・II 台付	W
108	58±・7ク土	深林	網	外縫+内縫、円筒状縫	口縫	N	(P13) P=9	Q=28・II 台付	W
109	58±・7ク土	深林	口縫	側面斜面文→芯縫	口縫	N	(P11) P=22	T=19・II 深林 口縫	W
110	58±・7ク土	深林	口縫	R.L露文	口縫	N	(P11) P=8	S=21・II 台付	W
111	58±・7ク土	深林	網	R.L露文+芯縫	口縫	N	(P13) P=14	Q=23・II 台付	W
112	58±・7ク土	深林	口縫	斜文+チサバヒロの正直	口縫	N	(P13) P=14	Q=24・I 台付	W
113	R=21・II	深林	口縫	R.L露文+芯縫(平打)	口縫	N	P=2	R=23・II 深林 口縫	W
114	Q=24・I・II	深林	口縫	側面斜面文→芯縫	口縫	N	(F=5) P=1,2	T=19・II 深林 口縫	W
115	Q=23・I	串	口縫	芯縫	口縫	N		V=19・I 深林 口縫	W
116	O=29・II	串	口縫	芯縫	口縫	N	(P=15) P=1,2	T=18・II 深林 口縫	W
117	繩模	鉢	網	芯縫+影響品	口縫	N		R=20・III上 深林 口縫	W
118	N=27・II	小型土器	網	芯縫	口縫	N	(P=14)	Q=16・II 深林 口縫+芯縫	W
120	S=20・II	深林	口縫	側面斜面文→芯縫(方底)	口縫	N	(F=11) P=2~9	N=2 深林 口縫+芯縫	W

鉄石器

遺跡外環石器

器皿名	器種	出土地・層位	計(m)	面積(m ²)	厚さ(cm)	石質	分類	備考	石質	分類	備考
105-158 石鏃	R-24・II	1.4	1.3	0.3	0.4	玉井石	I-a		P-24・II	8.3	6.8
159 石鏃	Q-25・II	2.6	1.6	0.6	2.2	玉井石	I-b		R-24・II	6.1	5.6
160 石鏃	O-22・I	3.8	2.1	0.8	6.1	玉井石	I-b		R-25・II	8.7	8.2
161 石鏃	(3.8)	2.2	0.6	(3.7)		玉井石	I-c	欠損	203 石鏃	9.0	8.0
162 石鏃	P-21・I	2.4	1.5	4.1	1.6	玉井石	I-a	欠損	204 石鏃	12.5	9.0
163 石鏃	P-19・I	2.5	1.5	0.3	0.5	玉井石	I-a	欠損	205 石鏃	10.9	8.5
164 石鏃	Q-23・II	2.1	1.3	0.3	0.5	玉井石	I-a	欠損	206 石鏃	7.8	6.2
165 石鏃	O-19・I	2.1	1.3	0.3	0.7	玉井石	I-a	欠損	207 石鏃	9.0	7.8
166 石鏃	P-21・I	2.1	1.3	0.3	0.7	玉井石	I-b	欠損に抉り	208 石鏃	9.4	6.9
167 石鏃	P-20・II	2.6	1.4	0.4	0.9	玉井石	I-b	玉井アラカマドナリ	209 石鏃	M-31・I	10.3
168 石鏃	Q-23・III	2.7	1.3	0.2	0.6	玉井石	I-b		210 石鏃	P-24・II	11.0
169 石鏃	Q-21・II	4.2	1.4	0.8	(4.2)	玉井石	I-c	欠損	211 石鏃	Y-21・II	7.8
170 石鏃	Q-21・II	(4.2)	1.2	0.3	(1.7)	玉井石	I-c	欠損	212 石鏃	Q-25・II	3.8
171 磨削石	N-32・I	9.8	2.1	0.9	21.6	玉井石	I-c	欠損	213 石鏃	Q-27・II	8.2
172 磨削石	L-33・I	(5.7)	2.1	0.3	(6.3)	玉井石	-	欠損	214 石鏃	N-28・II	8.2
173 磨削石	R-22・I	3.7	1.9	0.6	3.8	玉井石	-	欠損	215 石鏃	W-23・II	9.4
174 石斧	Q-25・II	5.0	2.6	0.5	9.4	玉井石	-	-	216 石鏃	Q-23・II	6.0
175 石斧	R-25・II	4.2	2.1	0.9	2.7	玉井石	I	欠損	217 石鏃	Q-23・II	6.2
176 石斧	Q-23・II	3.4	1.7	0.5	(1.0)	玉井石	I	欠損	218 石鏃	S-24・II	7.1
177 石斧	Q-19・III	3.3	0.9	0.7	1.8	玉井石	I	欠損	219 石鏃	R-22・III	5.9
178 不定形石器	19.1・27.1	3.7	4.0	1.0	15.2	玉井石	I	II	220 石鏃	O-27・II	(4.4)
179 不定形石器	O-24・I	4.4	3.6	1.3	21.2	玉井石	I	II	221 石鏃	Q-23・I	5.1
180 不定形石器	O-24・I	6.0	4.8	1.1	49.3	玉井石	I	II			2.1
181 不定形石器	Q-24・III	7.9	7.6	1.8	67.1	玉井石	III				0.7

遺跡内環石器

土製品・石製品

器皿名	器種	出土地・層位	計(m)	面積(m ²)	厚さ(cm)	石質	分類	備考	器皿名	器種	出土地・層位	
169-182 鉄筋棒	6.1・7.7	43.1・7.7	6.1	4.0	(374)	泥	I-b	R-22・II	5.1	4.7	欠損	
184 鉄筋棒	6.1・7.7	(6.9)	5.1	3.2	(203)	泥	I-a	S-1	欠損	223 石鏃	R-21・II	(4.9)
185 鉄筋棒	48.8・7.7	10.3	7.5	3.9	468	安	I	S-9	欠損	224 磨削石	T-21・I	4.5
186 鉄筋棒	6.1・7.7	13.0	7.4	5.2	(420)	泥	I-b	S-13	欠損	225 石鏃	D-26・I	(3.4)
187 鉄筋棒	5.1・7.7	(8.1)	4.2	3.5	(211)	泥	I-b	S-7	欠損	226 石鏃	O-21・I	(3.8)
188 鐵石	5.1・7.7	5.2	2.4	1.7	61	泥	I-a	S-3	欠損	227 石鏃	R-20・III	2.6
189 鐵石	19.1・7.7	4.3	3.8	0.8	68	泥	I	S-3	欠損	228 磨削石	P-26・II	2.8
190 鐵石	19.1・7.7	(0.1)	(7.8)	(2.1)	(327)	泥	I	II	欠損	229 石鏃	P-24・II	(3.4)
191 鐵石	5.1・7.7	(5.1)	(7.4)	(2.1)	(365)	泥	I	S-8	欠損	230 石鏃	T-18・II	(3.1)
192 鐵石	5.1・7.7	10.8	8.7	3.4	362	泥	I	S-3	欠損	231 磨削石	R-22・III	2.6
193 鐵石	19.1・7.7	(11.0)	8.8	2.6	(300)	泥	I-a	S-12	欠損	232 石鏃	19.1・7.7	8.7
194 鐵石	48.1・7.7	11.7	8.3	2.7	335	安	I-b	S-1	欠損	233 石鏃	P-25・III	(8.3)
195 鐵石	42.1・7.7	8.7	(6.1)	3.2	(47)	泥	I	S-1	欠損	234 磨削石	T-18・II	4.0
196 鐵石	30.07・7.7	5.3	(4.4)	2.7	(11)	泥	I	S-5	II	235 石鏃	Q-24・III	3.9
197 鐵石	5.1・7.7	3.1	1.9	1.3	2	泥	I	S-10	II	236 石鏃	Q-23・II	(7.5)
198 鐵石	19.1・7.7	5.6	(2.5)	2.2	(9)	泥	I	S-11	II	237 石鏃	R-23・III	2.8
199 鐵石	48.1・7.7	8.9	5.4	1.7	14	泥	I	S-5	II		7	

第4章 古代以降の遺構

第1節 検出遺構

検出した遺構は、時期不明の堅穴遺構1軒、平安時代の焼成遺構と考えられる土坑2基である。

1 堅穴遺構

第1号堅穴遺構（図22）

〔位置〕 調査区東側のW・X-20・21グリッドに位置する。

〔平面形・規模〕 西側が調査区域外にかかるため調査部分から推定して平面形は隅丸長方形、深さは1m6cmを測る。底面西よりにピット（深さ40cm）を検出した。

〔堆積土〕 堆積土は6層に分層される。

〔出土遺物〕 覆土から土師器の破片と石錘が出土している。

〔小結〕 時期不明の遺構で、形態が七戸城北館の第49号建物跡と似ていることから酒蔵か米倉の可能性が考えられる。

2 土坑

第3号土坑（図22）

〔位置〕 調査区東側のT-16グリッドに位置する。

〔平面形・規模〕 長軸1m32cm、短軸1m8cmの隅丸方形、深さは18cmである。

〔堆積土〕 4層に分層され、第4層は炭化物を多く含み、第2層と第3層にB-Tm火山灰が混入している。

〔出土遺物〕 覆土から礫が出土している。

〔小結〕 形態から平安時代の土師器の焼成遺構と考えられる。また、出土した炭化材の放射性年代測定では、 1220 ± 50 (1950年から)年前であると測定されている。

第7号土坑（図22）

〔位置〕 調査区東側のT-15グリッドに位置する。

〔平面形・規模〕 長軸1m38cm、短軸1m90cmの隅丸方形で、深さは21cmである。

〔堆積土〕 3層に分層される。第3層は炭化物を多く含み、第2層にB-Tm火山灰が混入している。

〔出土遺物〕 遺物は出土しなかった。

〔小結〕 形態から平安時代の土師器の焼成遺構と考えられる。また、出土した炭化材の放射性年代測定では、 1260 ± 40 (1950年から)年前であると測定されている。

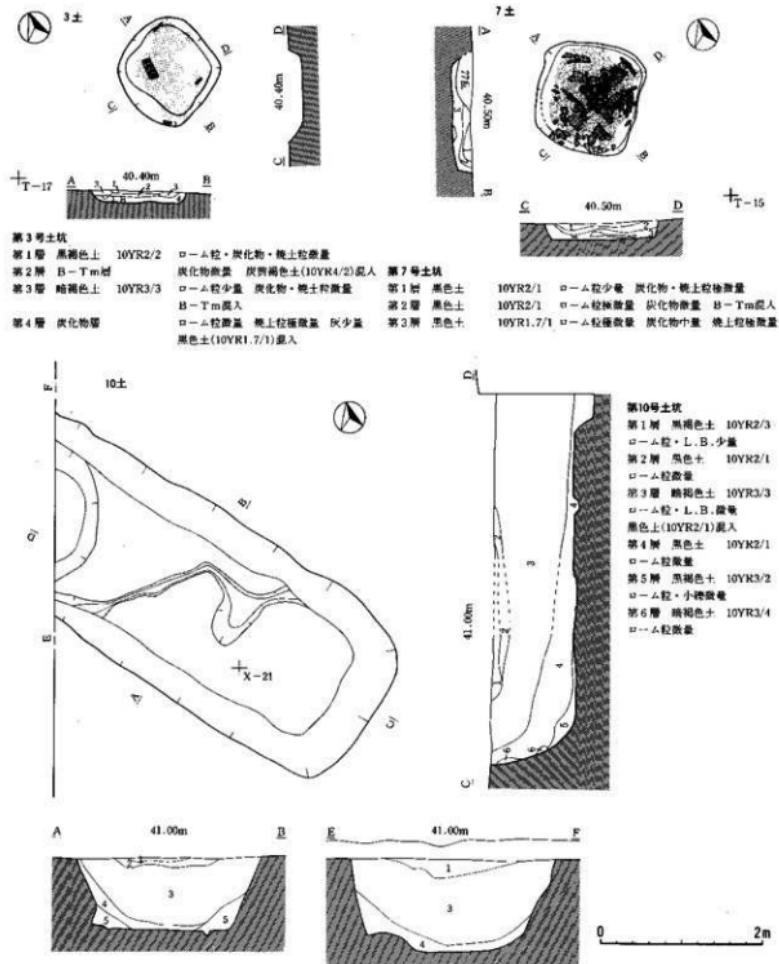


図22 第3号・第7号・第10号土坑

第1節 放射性炭素年代測定

第5章 自然科学的分析

放射性炭素年代測定センター

(株) 地質科学研究所

放射性炭素年代測定施設運営委員会

放射性炭素年代測定の結果について、前の論述をもとにした上で述べる。

組合せの問題

$\delta^{14}\text{C}$ (ppm)	HC/CO_2 比	組合せの問題	他の HC/CO_2 比から測定した結果
ME/14C app (ppm)	14C/HC (ppm)	組合せの問題	組合せの問題
ME/14C app (ppm)	14C/HC (ppm)	組合せの問題	組合せの問題
$\delta^{14}\text{C}$ (ppm)	HC/CO_2 比	組合せの問題	組合せの問題

$$\delta^{14}\text{C} (\text{ppm}) = \left[\frac{(\text{HC}/\text{CO}_2)_{\text{測定}}}{(\text{HC}/\text{CO}_2)_{\text{標準}}} - 1 \right] \times 1000$$

ここで、 $(\text{HC}/\text{CO}_2)_{\text{標準}} = 1000$ とした場合。

年代

まず、放射性炭素の衰滅による大気中の濃度低下(約3.7% per千年)と、炭酸ガスの組成変化による影響を考慮する。この二つの影響は、組合せによって、必ずしも対消すものではない。

そこで、 HC/CO_2 比が標準値より高くなる場合と、標準値より低くなる場合に分けて、組合せのデータを整理する。

組合せのデータ

放射性炭素年代測定センターアンダーコンサルタント会員

測定年： 1992年9月（標準値からの差）

測定方法： 伸張炭素法

C14年代測定結果		質品測定式(試料測定セグメント)		標	990308
試料データ	G14Capp (ppm)	G14Capp (ppm)	G14Capp (ppm)	ME/14C (ppm)	ME/14C (ppm)
試料データ	G14Capp (ppm)	G14Capp (ppm)	G14Capp (ppm)	ME/14C (ppm)	ME/14C (ppm)
試料データ	G14Capp (ppm)	G14Capp (ppm)	G14Capp (ppm)	ME/14C (ppm)	ME/14C (ppm)
試料名 (12/12) MI-1 (第3号土坑)	1240 ± 50	-26.0	1220 ± 50	1220 ± 40	1220 ± 50
測定方法、測定 Standard-AMS 測定方法、測定 Standard-AMS 測定方法、測定 Standard-AMS	acid-washed soil				
試料名 (12/12) MI-2 (第7号土坑)	1260 ± 40	-25.4	1260 ± 40	1260 ± 40	1260 ± 40
測定方法、測定 Standard-AMS 測定方法、測定 Standard-AMS 測定方法、測定 Standard-AMS	acid-washed soil				
試料名 (12/12) MI-3 (第7号土坑)	1260 ± 40	-25.4	1260 ± 40	1260 ± 40	1260 ± 40
測定方法、測定 Standard-AMS 測定方法、測定 Standard-AMS 測定方法、測定 Standard-AMS	acid-washed soil				
試料名 (12/12) MI-4 (第7号土坑)	1260 ± 40	-25.4	1260 ± 40	1260 ± 40	1260 ± 40
測定方法、測定 Standard-AMS 測定方法、測定 Standard-AMS 測定方法、測定 Standard-AMS	acid-washed soil				
試料名 (12/12) MI-5 (第7号土坑)	1260 ± 40	-25.4	1260 ± 40	1260 ± 40	1260 ± 40
測定方法、測定 Standard-AMS 測定方法、測定 Standard-AMS 測定方法、測定 Standard-AMS	acid-washed soil				
試料名 (12/12) MI-6 (第7号土坑)	1260 ± 40	-25.4	1260 ± 40	1260 ± 40	1260 ± 40
測定方法、測定 Standard-AMS 測定方法、測定 Standard-AMS 測定方法、測定 Standard-AMS	acid-washed soil				
試料名 (12/12) MI-7 (第7号土坑)	1260 ± 40	-25.4	1260 ± 40	1260 ± 40	1260 ± 40
測定方法、測定 Standard-AMS 測定方法、測定 Standard-AMS 測定方法、測定 Standard-AMS	acid-washed soil				

CALIBRATION OF RADIOCARBON AGE TO CALENDAR YEARS(Variables: C13/C12=25.4468 mol⁻¹)

Laboratory Number: Beta-137359

Conventional radiocarbon age: 1369 ± 40 BP

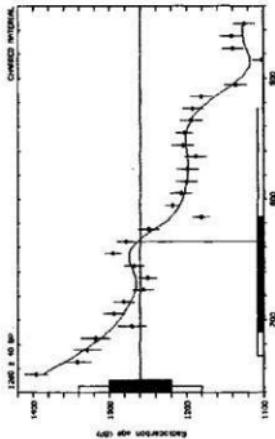
Calibrated results: cal AD 679 to 875 (Cal BP 1226 to 1975)

(2 sigma, 95% probability)

Intercept date:

Intercept of radiocarbon age with calibration curve.

cal AD 765 (Cal BP 1165)

1 sigma calibrated results: cal AD 690 to 785 (Cal BP 1260 to 1165)
(68% probability)

Beta Analytic Radiocarbon Dating Laboratory
4105 S.W. 7th Court, Miami, Florida 33155 • Tel: (305) 667-5667 • Fax: (305) 667-0994 • E-mail: lab@radiocarbon.com

CALIBRATION OF RADIOCARBON AGE TO CALENDAR YEARS(Variables: C13/C12=25.4468 mol⁻¹)

Laboratory Number: Beta-137338

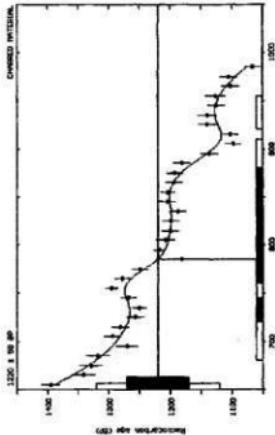
Conventional radiocarbon age: 1220 ± 50 BP

Calibrated results: cal AD 660 to 919 (Cal BP 1270 to 1640) and
(2 sigma, 95% probability) cal AD 920 to 955 (Cal BP 1850 to 995)

Intercept date:

Intercept of radiocarbon age with calibration curve.

cal AD 785 (Cal BP 1165)

1 sigma calibrated results: cal AD 720 to 745 (Cal BP 1230 to 1205) and
(68% probability) cal AD 760 to 880 (Cal BP 1190 to 1070)

Beta Analytic Radiocarbon Dating Laboratory
4105 S.W. 7th Court, Miami, Florida 33155 • Tel: (305) 667-5667 • Fax: (305) 667-0994 • E-mail: lab@radiocarbon.com

第6章　まとめ

1 遺跡の立地

本遺跡は、青森市街地から西方およそ7km離れた野木和湖のすぐ南の低丘陵地上に位置している。

遺跡周辺の地形は、なだらかな斜面で、遺跡が所在する丘陵は畑地や山林が広がっている。

標高は、およそ40mで、陸奥湾までの直線距離はおよそ3kmである。

2 検出遺構

遺構は、調査区中央部を中心に土坑48基（焼成遺構2基を含む）、竪穴遺構1基、掘立柱建物跡1軒の計50を検出した。

3 出土遺物

遺物は、主にO～S-20～30グリッドから集中して、段ボール箱で63箱分出土している。

そのうちの大部分が縄文時代後期前半の遺物である。

4 まとめ

本遺跡の検出した遺構の多くが縄文時代後期前半の土坑墓と考えられる。一般的に形態が橢円形で、土器などの遺物が出土した10基（4土・12土・16土・19土・23土・24土・26土・35土・38土・42土）の規模は長軸130～160cm、短軸90～110cmに集中している。壁の立ち上がりはやや内面傾く傾向が見られ、主軸方位はE-40°-NからE-40°-Sの東側にとるものが多い。その他の形態として円形や不整形の土坑も土坑墓の可能性が考えられる。また、土坑の覆土から多くの土器が出土している。遺物の割合として台付や小型土器の点数が多いことも土坑墓が検出されていることと密接な関係があると思われる。いずれにしても限られた部分の調査と周辺における同時期の検出例が少ないため不明な部分が多く、今後の調査の事例が望まれる。

出土した石器(163点)の中では、石錐(75点:46%)と軽石(23点:14%)が半数以上を占める。石錐の大きさは8cm前後で重さ200gほどのものが多く、海に近いことなどから漁具として使用された可能性があり、本遺跡の生業との関連が考えられる。

縄文時代後期前半と考えられる集落は調査区外にあると思われ、調査区は墓域と考えられる。

平安時代の遺構として焼成遺構が2基検出されているが住居跡は検出されなかった。

また、確認調査を行った野木和(3)遺跡、岡町(8)遺跡、岡町(9)遺跡では、いずれも遺構が検出されず、遺物も岡町(8)遺跡でごく少量出土したのみである。

(中嶋・竹内)

《引用参考文献》

- 青森県教育委員会 1973 「東北新幹線関係遺跡分布調査報告書」青森県埋蔵文化財調査報告書第6集
- 青森県教育委員会 1980 「新納屋遺跡(2)発掘調査報告書」青森県埋蔵文化財調査報告書第62集
- 青森県教育委員会 1988 「上尾駿(2)遺跡II発掘調査報告書」青森県埋蔵文化財調査報告書第115集
- 青森県教育委員会 1995 「泉山遺跡III発掘調査報告書」青森県埋蔵文化財調査報告書第190集
- 青森県教育委員会 2000 「三内丸山(6)遺跡発掘調査報告書」青森県埋蔵文化財調査報告書第279集
- 青森市教育委員会 1971 「野木和遺跡調査報告書」青森市の文化財5
- 青森市教育委員会 1996～1999 「小牧野遺跡発掘調査報告書」～「小牧野遺跡発掘調査報告書IV」
青森市埋蔵文化財調査報告書第30集・第35集・第40集・第45集

報告書抄録

ふりがな	みやもといせきはっくつちょうさほうこくしょ
書名	宮本(2)遺跡発掘調査報告書
副書名	
巻次	
シリーズ名	青森県埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第293集
編著者名	中嶋友文、竹内誠司
編集機関	青森県埋蔵文化財調査センター
所在地	〒038-0042 青森市新城字天田内152-15 TEL.017-788-5701
発行年月日	2001年2月28日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
宮本(2)	青森市大字 岡町字宮本 75-124外	02201	185	40° 50' 26"	140° 39' 46"	19990421 ~ 19990730	2,700	県道青森五所 川原線道路建設事業に伴う 発掘調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
宮本(2)	墓域	縄文・平安	土坑 壇立柱建物跡 焼成遺構 竪穴遺構	46基 1棟 2基 1基	縄文土器 石器 土製品 石製品

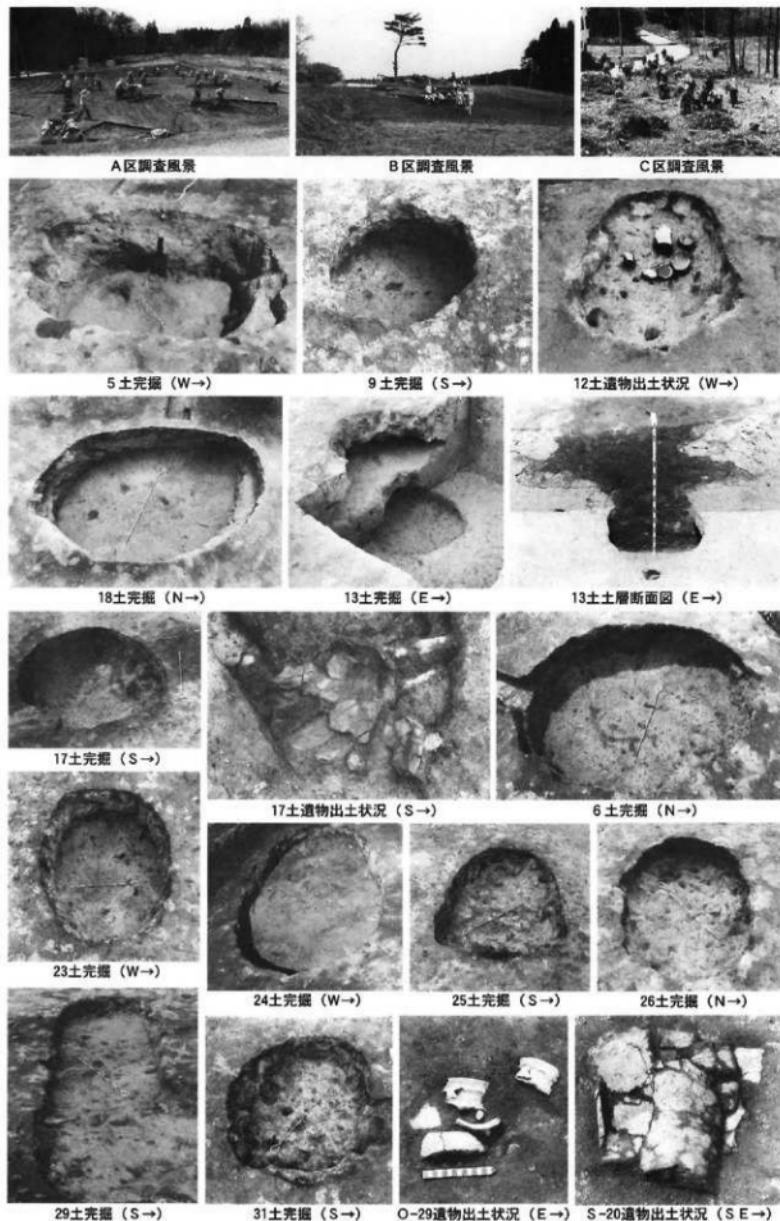


写真 1 土坑 (1)

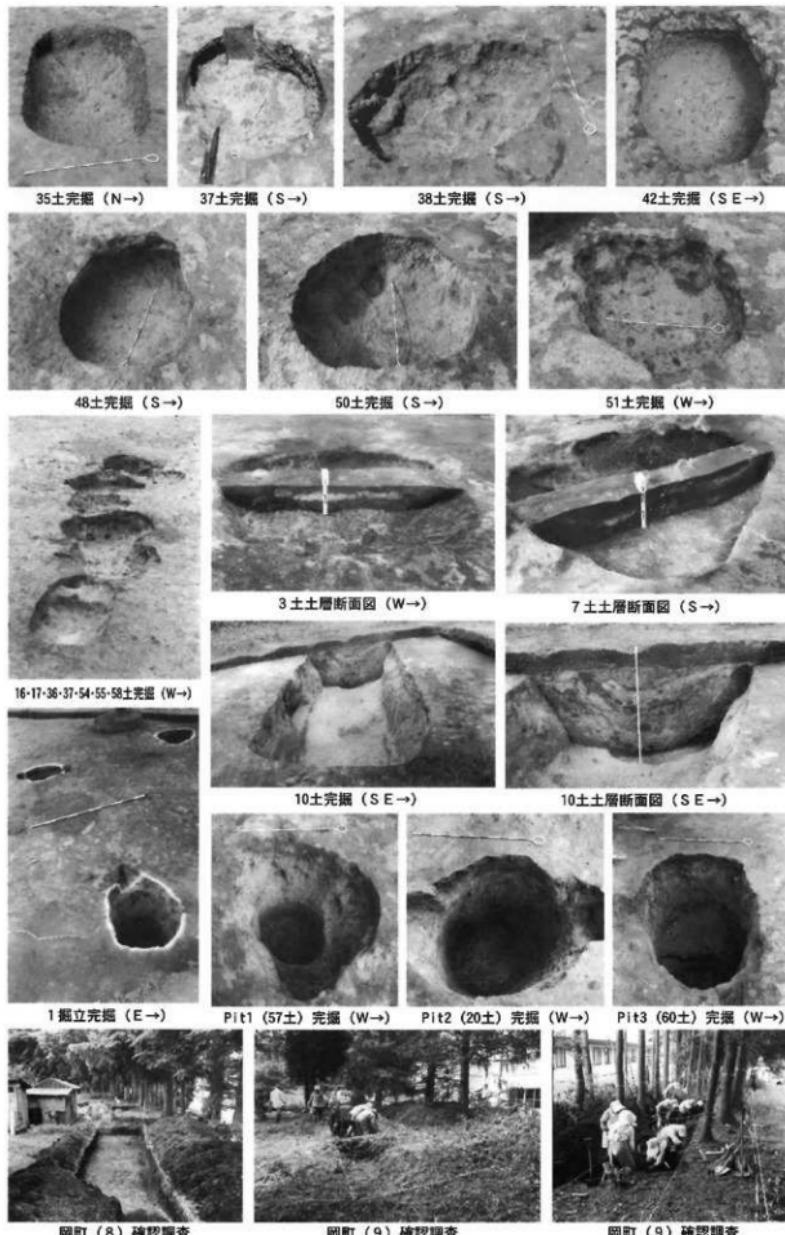


写真2 土坑(2)

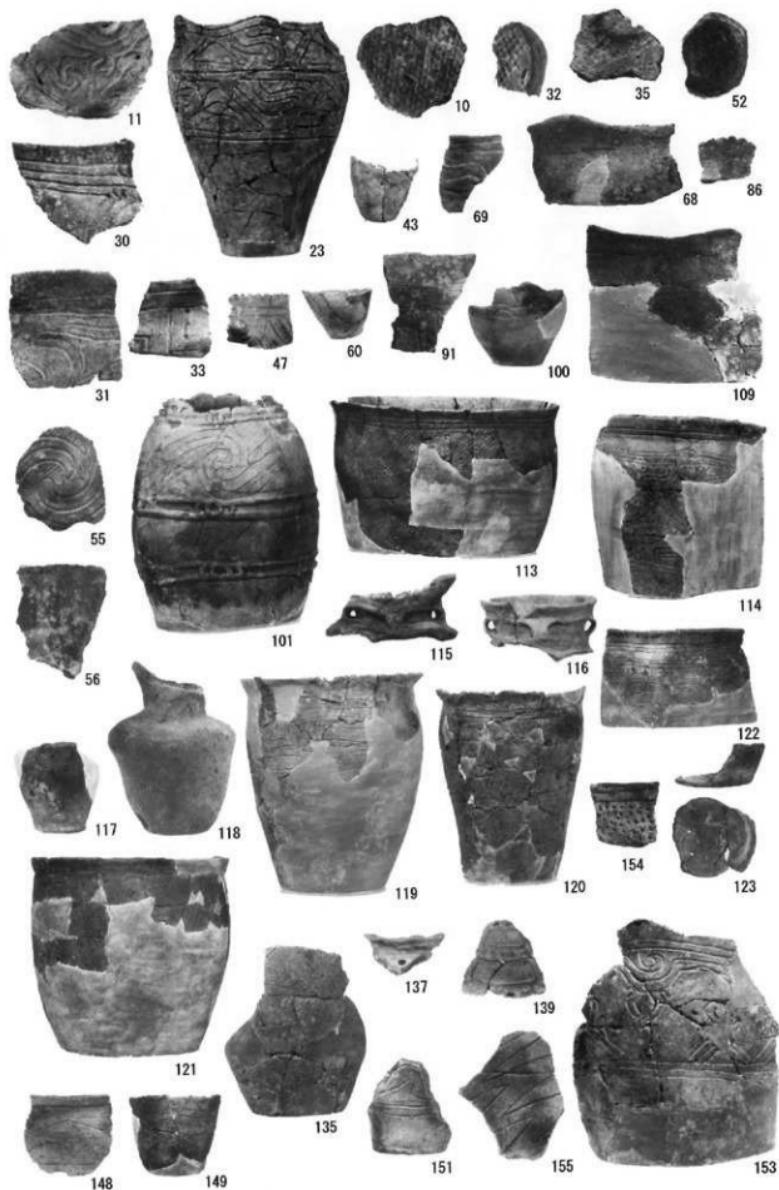


写真3 出土土器

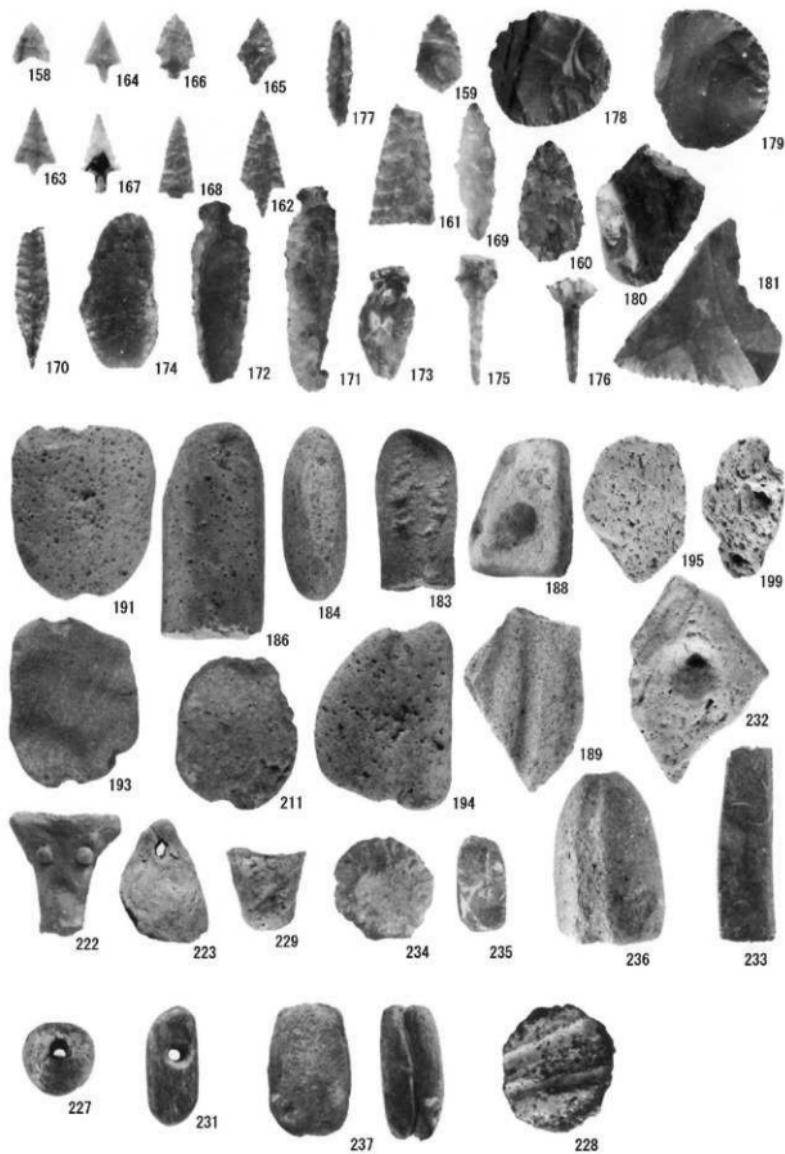


写真4 出土石器・土製品・石製品

青森県埋蔵文化財調査報告書 第293集

宮本（2）遺跡

—県道青森五所川原線道路建設事業に伴う埋蔵文化財調査報告—

発行年月日 平成13年2月28日
発 行 青森県教育委員会
〒030-0801 青森市新町2丁目3番1号
電話 017-722-1111（代表）
編 集 青森県埋蔵文化財調査センター
〒038-0042 青森市新城字天田内152-15
電話 017-788-5701 FAX.017-788-5702
印 刷 所 青森相互印刷株式会社
〒038-0013 青森市久須志4丁目1-25
電話 017-766-5161 FAX.017-766-5162



活影あおもり

一風ぐるおもり新時代